



小学校  
5・6年生

社会科副読本

# 北大東村の 生活と仕事



# もくじ

## 1 広い地域の中の北大東村 \_\_\_\_\_ ページ 2-7

- ① 北大東島の位置    ② 北大東島と近くの島々
- ③ 北大東島の地形    ④ 北大東島の誕生    ⑤ 太平洋の中の北大東島

## 2 島から生まれる食べもの \_\_\_\_\_ 8-21

- 2 - ① 土から生まれる食べ物
- ① サトウキビ    ② ジャガイモ    ③ カボチャ

- 2 - ② 海から生まれる食べ物
- ① 漁業    ② 陸上養殖業

## 3 離島に情報が届くまで \_\_\_\_\_ 22-27

- 3 - ① 海底ケーブルでつながる放送・通信

- 3 - ② 「本土並み」になるまでの放送・通信

- ① 放送    ② 通信    ③ 情報通信を活かした新たな取り組み

## 4 役場・議会とくらし \_\_\_\_\_ 28-35

- 4 - ① 島のくらしを支える公共施設

- 4 - ② 村役場の組織と財政

- ① 組織    ② 収入と支出

- 4 - ③ 村議会の役割

- ① 組織    ② 議会の進め方

## 5 島のくらしを育んだ歴史 36-58

### 5 - ① 大東諸島の発見

### 5 - ② 燐鉱山で栄えた会社時代

① 玉置半右衛門たまおきはんえもんによる南・北大東島の開拓かいたく

② 東洋製糖せいとう・大日本製糖による島の経営

コラム 島の王様・出張所長

### 5 - ③ 島の戦争

### 5 - ④ 村の誕生と土地所有権運動

① 村の誕生と燐鉱山の閉鎖へいさ

② 土地所有権問題しよゆうけんと糖業の発展はってん

### 5 - ⑤ 本土復帰とくらしの変化

① 海と空の交通 ② 電気と水道

### 5 - ⑥ 燐鉱山の時代を伝える文化財

① 北大東島燐鉱山遺跡 ② 燐鉱山由来の文化的景観

付録 1: 北大東村の歴史年表 59

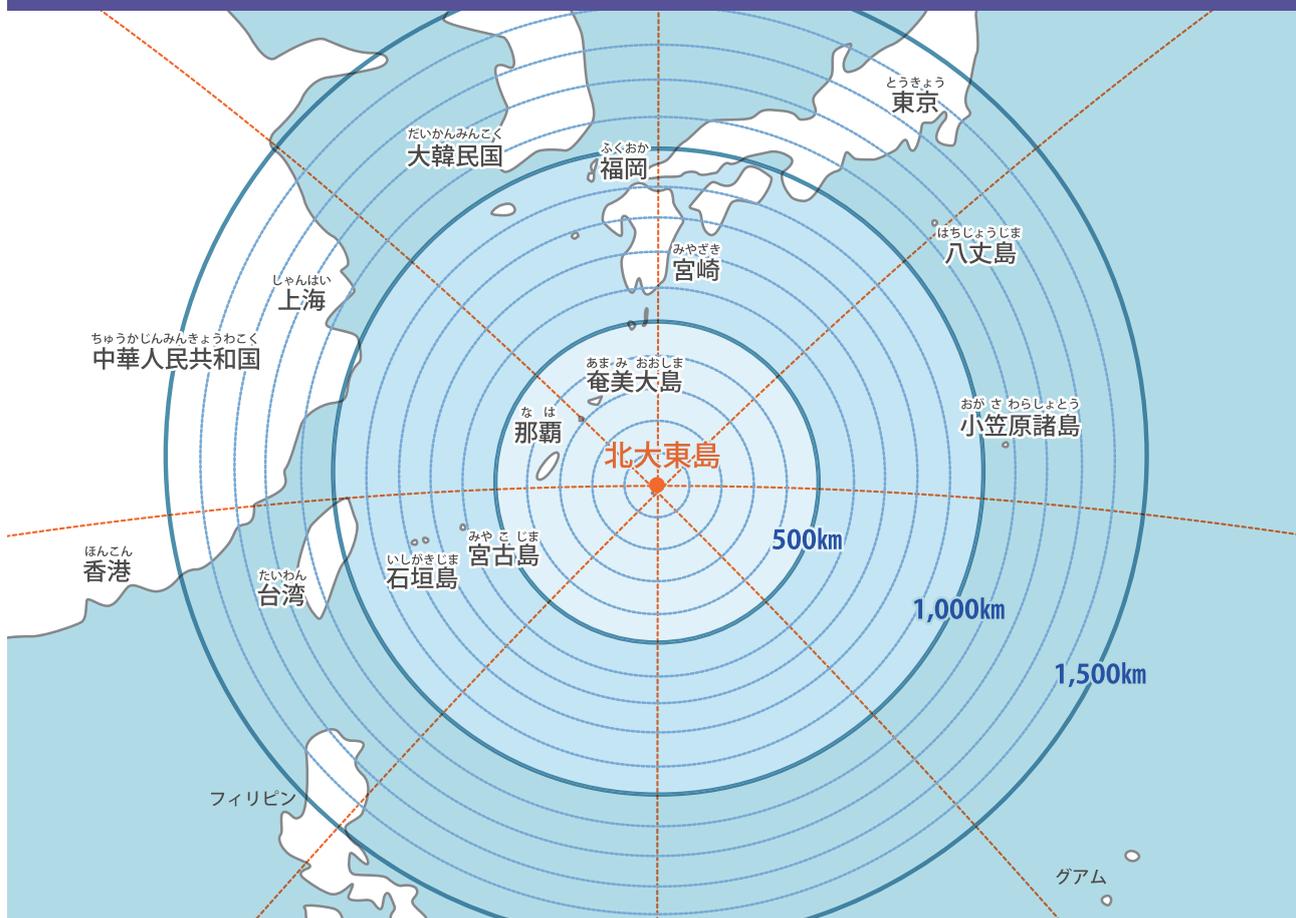
付録 2: 戦後の沖縄の行政組織の移り変わり 60

# 1 広い地域の中の北大東村

## 1 北大東島の位置

北大東島は、<sup>おきなわ</sup>沖縄県の中で最も東にある島です。<sup>なは</sup>那覇からは約360kmもはなれています。北大東島を中心に、<sup>はんい</sup>広い範囲をながめてみましょう。沖縄本島よりも<sup>あまみ</sup>奄美大島の方が近いことがわかります。真北の方向に線をのぼしていくと、<sup>みやざき</sup>宮崎県に当たります。

北大東島を中心とした都市・島々の位置



### チャレンジポイント

- 1) 北大東島を中心に見て、どの程度の<sup>きょり</sup>距離にどんな地域があるか、どの地域とどの地域が同じくらいの距離にあるのかを地図から読み取ってみよう。
- 2) 北大東島を中心に見て、どの方位にどんな地域があるか、どの地域とどの地域が同じ方位にあるのかを地図から読み取ってみよう。

## ② 北大東島と近くの島々



北大東村は、どこまでの範囲を指すのでしょうか。北大東島だけではなく、南の方に約160kmもはなれている沖大東島も含まれます。

一方で、約8kmしかはなれていない南大東島は、南大東村



という別の村になります。北大東島、南大東島、沖大東島の3つの島をあわせて、大東諸島と呼びます。北大東島の面積は11.9km<sup>2</sup>です。南大東島はその約3倍に近い広さで、30.5km<sup>2</sup>です。沖大東島の広さは10分の1に満たない1.15km<sup>2</sup>です。

### チャレンジポイント

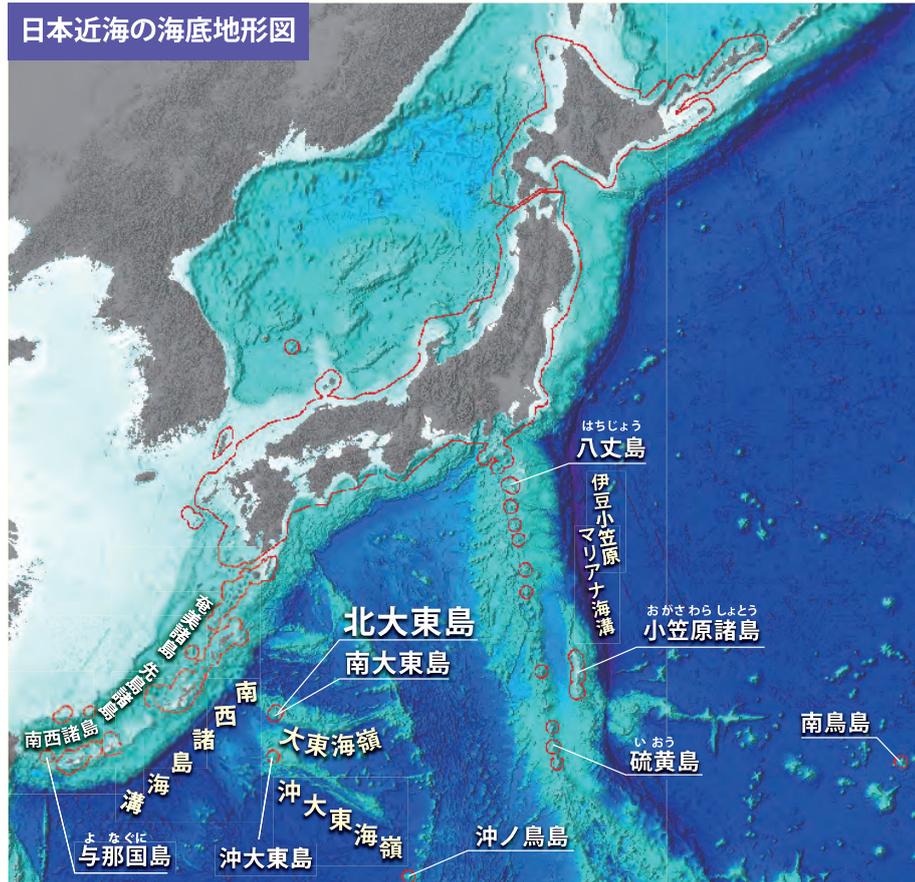
北大東島、南大東島、沖大東島の3つの島を1つのまとまりとして、大東諸島と呼ぶのはなぜだろうか。

# 1 広い地域の中の北大東村

## ③ 北大東島の地形 ちけい

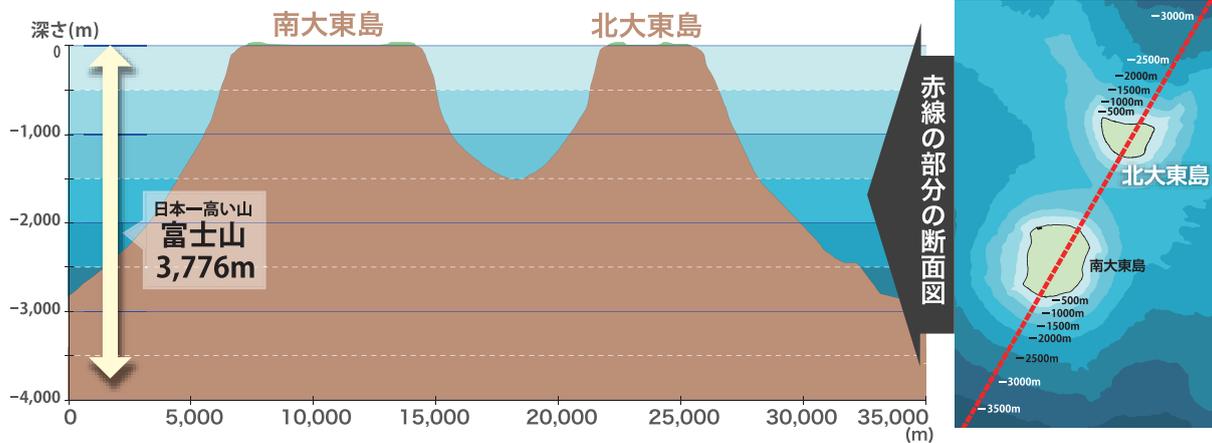
大東諸島は、  
おきなわ 沖縄県の島々の中  
 で特別な場所  
 にあります。あまみ 奄美  
しよとう 諸島から先島諸  
 島にいたる南西  
 諸島の島々のつ  
 らなりは南西諸  
かいこう 島海溝(7,000m  
 以上の深さの海  
 底の溝)の西側に  
 ありますが、大東  
 諸島だけが東側  
 にあります。大東

日本近海の海底地形図



出典：海洋状況表示システム (<https://www.msil.go.jp/>) より作成

諸島のうち、南・北大東島は同じ海底の山脈(大東海嶺といいます)の上であり、  
 沖大東島は別の山脈(沖大東海嶺といいます)の上にあります。



大東海嶺<sup>かいれい</sup>にはひときわ高い2つの山があり、その頂上<sup>ちようじょう</sup>付近が海面に出ています。この海面に出ている部分が、わたしたちの住む南・北大東島です。

2つの島は、それぞれとても高い山なので、その間は1,500mを超える深さの谷のようになっています。

#### ④ 北大東島の誕生<sup>たんじょう</sup>

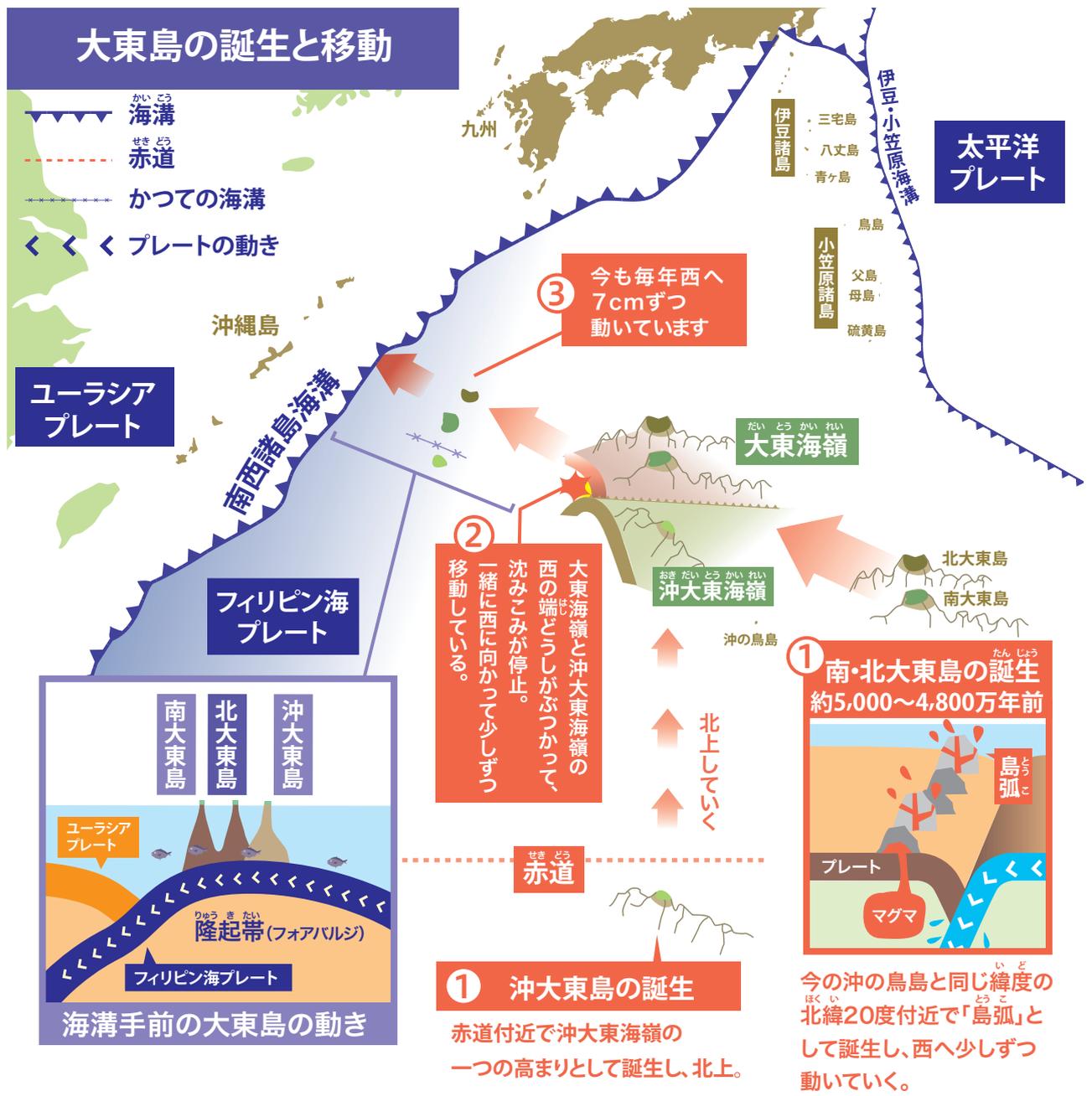
北大東島と南大東島のある、大東海嶺<sup>かいれい</sup>は、約5,000から4,800万年前に、現在の位置<sup>げんざい</sup>（北緯<sup>ほくい</sup>25度付近）よりも南に下った北緯20度付近（現在の沖ノ鳥島と同じ緯度<sup>たんじょう</sup>）で誕生しました。このあたりで、プレート（地球をおおっている十数枚の厚い岩盤の広がり）の沈みこみ<sup>しず</sup>が起こり、その先で、火山活動が帯のようにつらなって起こりました。この時できた火山のつらなりを「島弧<sup>とうこ</sup>」と呼びます。日本列島も海溝<sup>かいこう</sup>に沈みこんだプレート<sup>しず</sup>の影響<sup>えいきょう</sup>でできた島弧です。

大東諸島のもう一つの島である沖大東島は、沖大東海嶺<sup>かいれい</sup>の中でひときわ高い山です。沖大東海嶺は、現在の位置よりもはるか南の赤道付近で島弧として誕生しました。沖大東海嶺は、大東海嶺の下に沈みこむ別のプレートの上に乗っていました。

2つの海嶺は、フィリピン海プレートの運動の影響により北上しながら、沖大東海嶺が乗っているプレートが大東海嶺の下に沈みこむことで次第に接近しました。沖大東海嶺が沈みこもうとした時、その端<sup>はし</sup>が大東海嶺<sup>しやうとつ</sup>に衝突してそれ以上沈みこむことができなくなってしまいました。このために、大東海嶺と沖大東海嶺は西の端がぶつかって、東にいくほど離<sup>はな</sup>れているという現在のような位置関係になりました。

# 1 広い地域の中の北大東村

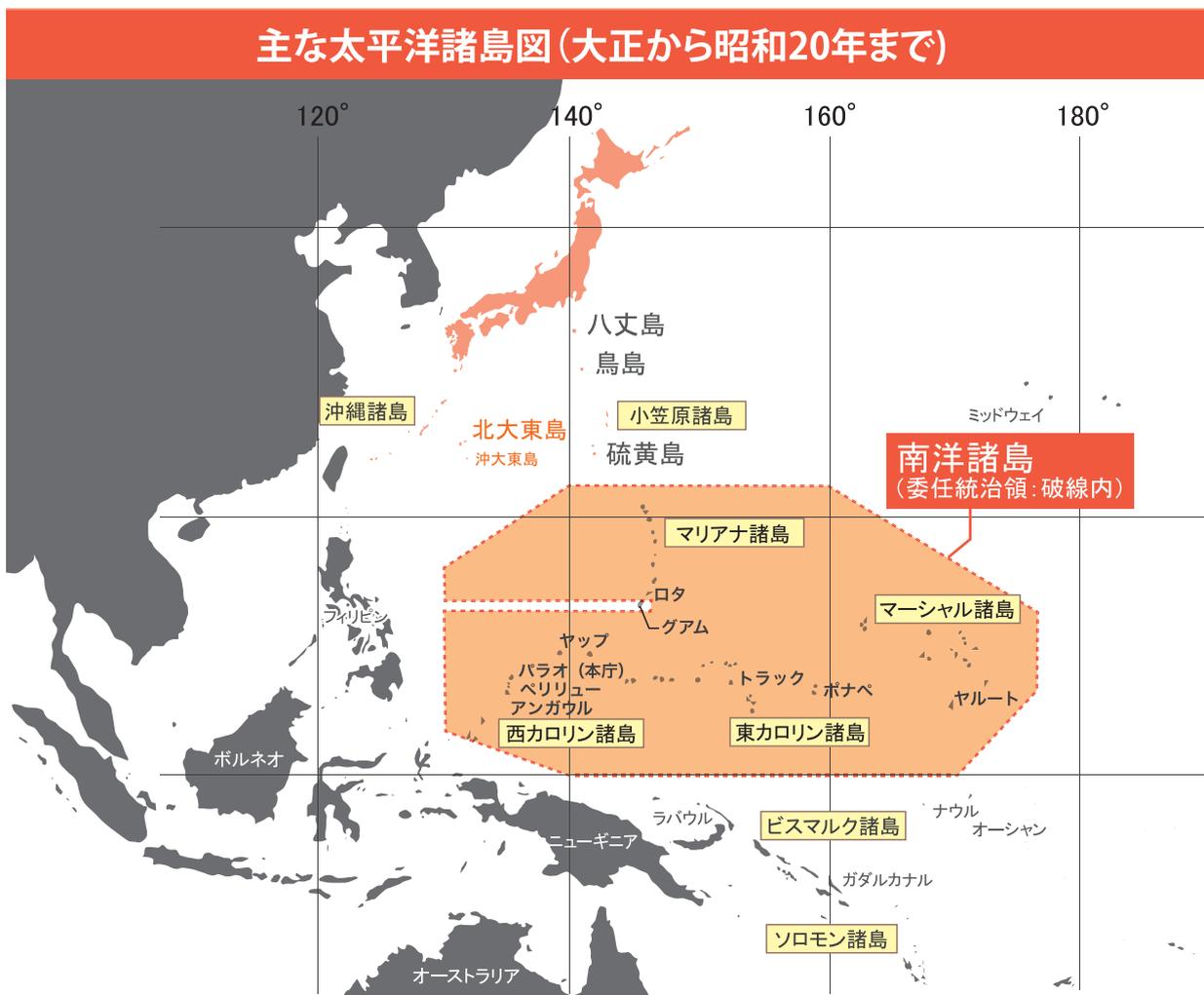
2つの海嶺はフィリピン海プレート上で一体となって北上し、現在の位置に達しています。はるか未来ですが、フィリピン海プレートが南西諸島海溝に沈みこんでいく運動により、2つの海嶺はやがて、海溝に沈んでいくと考えられています。



**チャレンジポイント** プレートが移動する仕組みを調べてみよう。

## ⑤ 太平洋の中の北大東島

大東諸島は、沖縄県、日本の中にありますが、さらに南の海には、太平洋諸島の多数の島々があります。第二次世界大戦の前、日本は太平洋諸島（当時は南洋諸島と呼んでいました）の島々の一部の統治を国際社会から任されていたことがあります。これらの島々を委任統治領と呼びました。このころ、大東島は日本の端ではなく、日本人、特に沖縄出身が多く住んでいた南洋諸島の委任統治領と日本本土を結ぶ中間にあったのです。



## 2 島から生まれる食べもの

北大東島の主な産業は、農業、水産業、それらに關係する食品加工業であり、わたしたちの生活に欠かせない食料を生産しています。農業では、サトウキビが主要作物であり、島内で原料糖に加工して、島外に出荷しています。他にも、ジャガイモ、カボチャを生産し、島外に販売しています。水産業では、主にマグロ、サワラを捕獲して、島外に運んでいます。北大東島で生産される食料が、どのように収穫・捕獲され、加工されて、島外に運ばれ、利用・販売されているかを学習します。

### 2 - 1 土から生まれる食べ物

#### 1 サトウキビ サトウキビの栽培

サトウキビの栽培は、植えつけ、管理、収穫の順に行われます。植えつけには、春植えと夏植えの二種類があります。



収穫を行った後で、最初の株からまた芽が出てくるので、植えつけをしなくても3回から4回は収穫をすることができます。こうした栽培の方法を「株出し」といいます。



1 植えつけ



2 株出し管理



3 防虫・防除 ぼうじょう



4 点滴かんがい てんてき



5 培土 ばいど



6 収穫 しゅうかく

サトウキビ栽培さいばいの管理には、肥料散布ばいど、培土じょそう ※1、除草ほうちゆう、防虫・防除ぼうじょう ※2、かんがい ※3 などがああります。北大東島では降水量こうすいりょうが少なく、干ばつかん ※4 が起こりやすいので、1999年から節水型の点滴かんがいを取り入れています。

収穫は、農協 (JA) が農家から一括いっかつして引き受けて、大型収穫機械しゅうかくであるハーベスターでかり取り、原料運搬車うんぱん (伴走車ばんそう) で製糖工場せいとうに運んでいます。

- ※ 1 培土：作物を安定させるために根元に土を盛ること。
- ※ 2 防虫・防除：害虫を防ぐ。
- ※ 3 かんがい：農作物に必要な水を供給すること。
- ※ 4 干ばつ：長期間の水不足の状態じょうきかんで農作物などの被害ひがいを受ける自然災害。

### チャレンジポイント

- 1) 春植えと夏植えはそれぞれどんな利点があるかを考えてみよう。
- 2) 点滴かんがいが大東島に適している理由をくわしく考えてみよう。

## 2 島から生まれる食べもの

### 製糖工場による原料糖の生産・出荷

どこの家の台所にもある砂糖さとうは、おもにサトウキビまたはテンサイを原料としてつくられます。サトウキビから砂糖をつくる工程は、①サトウキビの栽培地さいばいにある工場さいばいで原料糖をつくる工程と②消費地に近い工場さいばいで原料糖を加工して精製糖をつくる工程の2つの段階からなります。北大東島にある製糖工場では、1つめの工程の原料糖をつくる作業を行なっています。

### 原料糖をつくる工程



#### 1 糖汁をしぼり出す

収穫したサトウキビを細かく切りくだいで、汁をしぼる。



#### 2 加熱して不純物を取り除く

石灰乳を加えて加熱し、不純物を集め固まらせて、しずませる。



#### 3 濃縮した糖汁から結晶を育てる

上ずみ液せいじょうえき（清浄液）を煮つめて、真空装置そうちの中で結晶をつくる。



#### 4 結晶を分離する

遠心分離機えんしんぶんりきにかけて、結晶を取り出す。



原料糖



出荷する 原料糖は船で出荷する。

こうしてできた原料糖は、船で本土に出荷され、千葉県にある工場で精製されて砂糖になり、市場に供給されます。

製糖期（1月から3月）には、製糖工場は24時間連続で毎日動き続けます。集中して労働力が必要となるため、季節工（ある



製糖工場にある堆肥センター

期間だけの労働者)を毎年島外から募集します。製糖工場は、宿舍や食堂を用意して、季節工をむかえます。

糖分をしぼりとした後の余りであるバガスなどはボイラーの燃料や畑の堆肥として再利用されます。



サトウキビ収穫量 (単位:トン)

### チャレンジポイント

- 1) 北大東島で黒糖がつくられていない理由を考えてみよう。
- 2) サトウキビの生産量が年によって変化する理由を考えてみよう。

## 2 島から生まれる食べもの

### ② ジャガイモ

#### ジャガイモの栽培

サトウキビは、株出しをくり返して連続して栽培すること（連作）が可能な作物です。しかし、連作を続けると、だんだん収穫が低下します。これを連作障害と言います。連作障害を避けるためには、輪作といって他の作物と交互に栽培を行う必要があります。高く売ることができる輪作作物を作れば、農家の収入が安定します。

北大東島では、1992年(平成4年)から輪作作物としてジャガイモの栽培をはじめました。ジャガイモの栽培は、サトウキビの収穫を終えた畑を一年休ませて、その間に行います。春から夏にかけて緑肥（植物を育ててそのまま田畑にすきこみ肥料にする）の栽培を行った後で、10月から12月に植え付けて、2月から3月に収穫します。

サトウキビとの輪作で栽培するジャガイモは病虫害の発生が少ないことから、普通は農薬を必要としません。このため、北大東島のジャガイモ農家は、環境にやさしい農家として、沖縄県で第一号のエコファーマーに選ばれました。他の産地よりも早く2、3月に新じゃがを出荷できることから、北大東産のジャガイモは高い価格で取り引きされます。

しかし、収穫に手間がかかるために、高齢化が進んでいる農家にとって負担が大きく、栽培する農家が減っているという問題があります。



ジャガイモの収穫風景

#### チャレンジポイント

ジャガイモの収穫はどうして手間がかかるのだろうか。カボチャの場合と比べてみよう。

## ジャガイモの加工

ジャガイモの生産量のうち、形の悪いものや小さすぎるものは規格外品としてあつかわれて、以前は約15%が<sup>はいき</sup>廃棄されていました。規格外のジャガイモを<sup>す</sup>捨てるのはもったいないので、有効に利用できないかと考えましたが、収穫には人手が必要です。そこに、本島の<sup>ふくし しせつ</sup>福祉施設から<sup>はけん</sup>派遣された<sup>えんのうたい</sup>援農隊が収穫を担うことになり、規格外のジャガイモを使用して加工品を開発することになりました。本島の加工業者が協力してくれたので、ジャガイモを原料につくったお酒・じゃがいも焼酎「<sup>たんじょう</sup>ぽてちゅう」が誕生しました。このほかにも、北大東の中学生の発案で本島のパン屋に協力してもらって、ジャガイモの入りのビスコッティを開発するなど、ジャガイモを使った特産品が生まれています。

## じゃがいも焼酎「ぽてちゅう」ができるまで



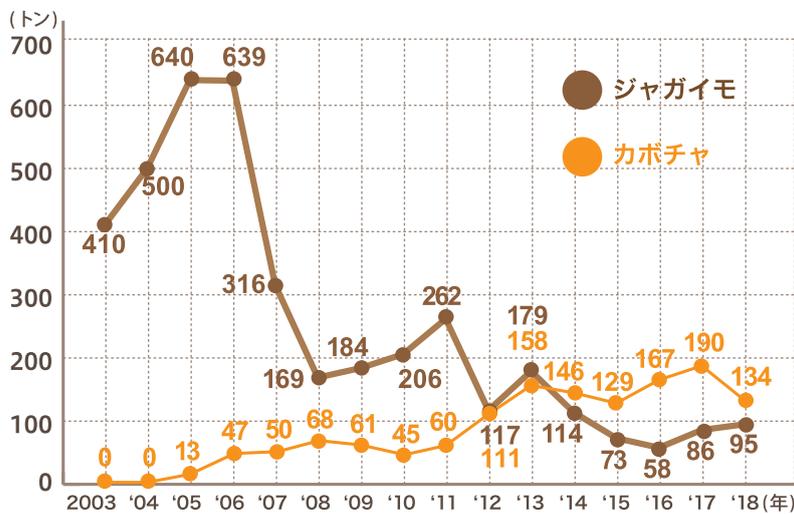
※売上の中から1本あたり30円を島の農業振興に役立てています

## 2 島から生まれる食べもの

### ③ カボチャ

ジャガイモと同じく、サトウキビの輪作作物として、カボチャの栽培が2005年（平成17年）に始まりました。連作障害をさけるために栽培を休んでいるサトウキビ畑を利用して、8月から10月に土づくりを行い、11月から12月に植え付け、2月から4月に収穫しています。

多くは関東などの県外に出荷され、L玉とよばれる大きな実がなり、完熟しているのが特徴です。県外では収穫がない2月から4月に出荷できることから、高い価格で取り引きされます。県内の有名な産地である南風原町の津嘉山でつくられるカボチャと並んで、品質は高く評価されています。2015年（平成27年）には、北大東村は沖縄県からカボチャの拠点産地に認定されました。



ジャガイモとカボチャの収穫量の変化（単位：トン）



カボチャの収穫風景

#### チャレンジポイント

- 1) ジャガイモの生産が減少し、カボチャの生産が増えているのはなぜだろうか。考えてみよう。
- 2) カボチャを利用した特産品はまだ少ないが、どのような商品がよいかを考えてみよう。

## 2 - ② 海から生まれる食べ物

### ① 漁業

#### 変わりつつある北大東島の水産業

北大東島のまわりの海は、豊かな漁場です。島から10kmほどはなれた位置に、沖縄県と南・北大東村が設置した浮き魚礁(パヤオ)があり、島外からも漁船が集まってきます。魚礁とは人工的につくった魚のすみかです。しかし、漁業はなかなか盛んになりませんでした。



村が購入した4トン以上の漁船  
(後ろは従来の小型漁船)

2018年(平成30年)までは北大東島では、船の出入りにはクレーンを用いる必要があったため、2トン未満の小さな船しか使えませんでした。小さな船では海が少しでも荒れるとパヤオに近づくことができず、漁をすることができませんでした。2019年に漁港が開港したことで、大型の船舶を使うことが可能になりました。

2019年現在、専業の漁師は3人、農家などの兼業者もあわせると6人です。近年、若い見習いが増加しています。村は、2019年より4トン以上の漁船の購入を進めています。この船を活用して、これからの漁業を担うウミンチュ(漁師)を育成しようとしています。

#### チャレンジポイント

北大東島の漁業が長い間、盛んにならなかったのはなぜだろう。くわしく考えてみよう。

#### 島の漁師のつり方

北大東島の漁師は、年間を通じて主にマグロ(キハダ)とサワラ(カマスサワラ)をつります。夜に漁に出て、深海魚のナワキリ(クロシビカマス)をつることもあります。

## 2 島から生まれる食べもの

つれたナワキリを深海から引き上げてくる途中<sup>とちゅう</sup>で、ナワキリを食べたインガンダルマ（バラムツまたはアブラソコムツ）が代わりに上がってくることがあります。

インガンダルマはおいしい魚ですが、油がきつく、食べるとお腹<sup>なか</sup>をこわしやすいので、食品として販売することは禁止されています。この他にも、カンパチ、ツンブリ、カツオ、カジキ、タコ、イセエビ、沿岸にすみついている小魚（マチ類など）などをつることもありますが、数は多くありません。漁船が大きくなれば、ソデイカをつるようになるかもしれません。

1年の中では、5月から7月、9月から10月にマグロが多くつれます。サワラが多くつれるのは、4、5月、または10、11月です。最近は、こうした1年の周期があいまいになってきているようです。夏場はどちらもつれないので、ナワキリ漁に切り替えるなどしています。漁船が大きくなって、海が荒れる冬でも漁ができるようになると、冬の漁獲量<sup>ぎよかくりょう</sup>も上がると考えられます。

北大東島の漁師は、魚がつれた後は、すぐに神経じめ<sup>※1</sup>と血ぬきをおこなって、すぐにスラリー氷<sup>※2</sup>の入ったボックスに入れ、魚を新鮮<sup>しんせん</sup>に保つ努力をすることで、北大東島でつれる魚は、高い価格で島外に引き取られるようになってきました。

マグロの漁法には、旗流し<sup>はた</sup>（たてはえなわ）、曳き縄<sup>ひなわ</sup>つり（生き餌流し<sup>え</sup> [方言でイケバイスンチャー]、疑似餌流し<sup>ぎじえ</sup>）があります。サワラの漁法は、曳き縄つりです。

※1 神経じめ：先に神経をぬいて、死後硬直をふせぐことで、魚の身の品質を維持する手段のこと。

※2 スラリー氷：海水と細かい氷を混ぜシャーベット状にしたもの。魚などの冷やしたいものをまんべんなくおおって、鮮度を保つ事が出来る。



## 2 島から生まれる食べもの

### 水産加工施設と魚市場

西港の近くに、水産加工施設が2013年（平成25年）に完成しました。ここは漁船からおろされた魚をさばいて新鮮しんせんに保つため、沖縄県内でも最高水準の施設となっています。室温を15度に保持できる加工室さつきん、殺菌した海水を用いた洗浄水せんじょうすいの配管、魚の新鮮さを保つための特殊な氷であるスラリー氷の製造設備などが設置されています。この施設でさばかれた魚のうち、一部は島民用として魚市場ぎょうきゅうに供給されますが、多くはスラリー氷がつまった出荷用のコンテナにつめられ、定期船で沖縄本島に運ばれて、スーパーなどで販売はんばいされます。魚市場では、水産加工施設から運ばれた魚をさばいて、島民向けに販売しています。



水産加工施設



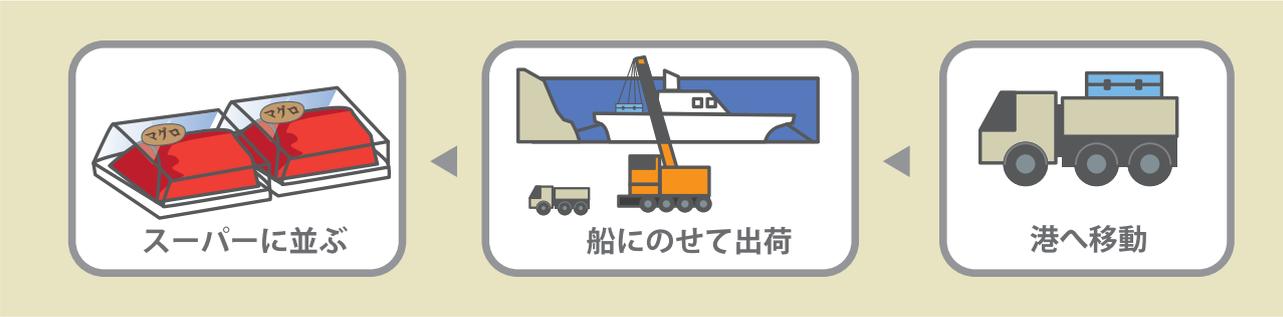
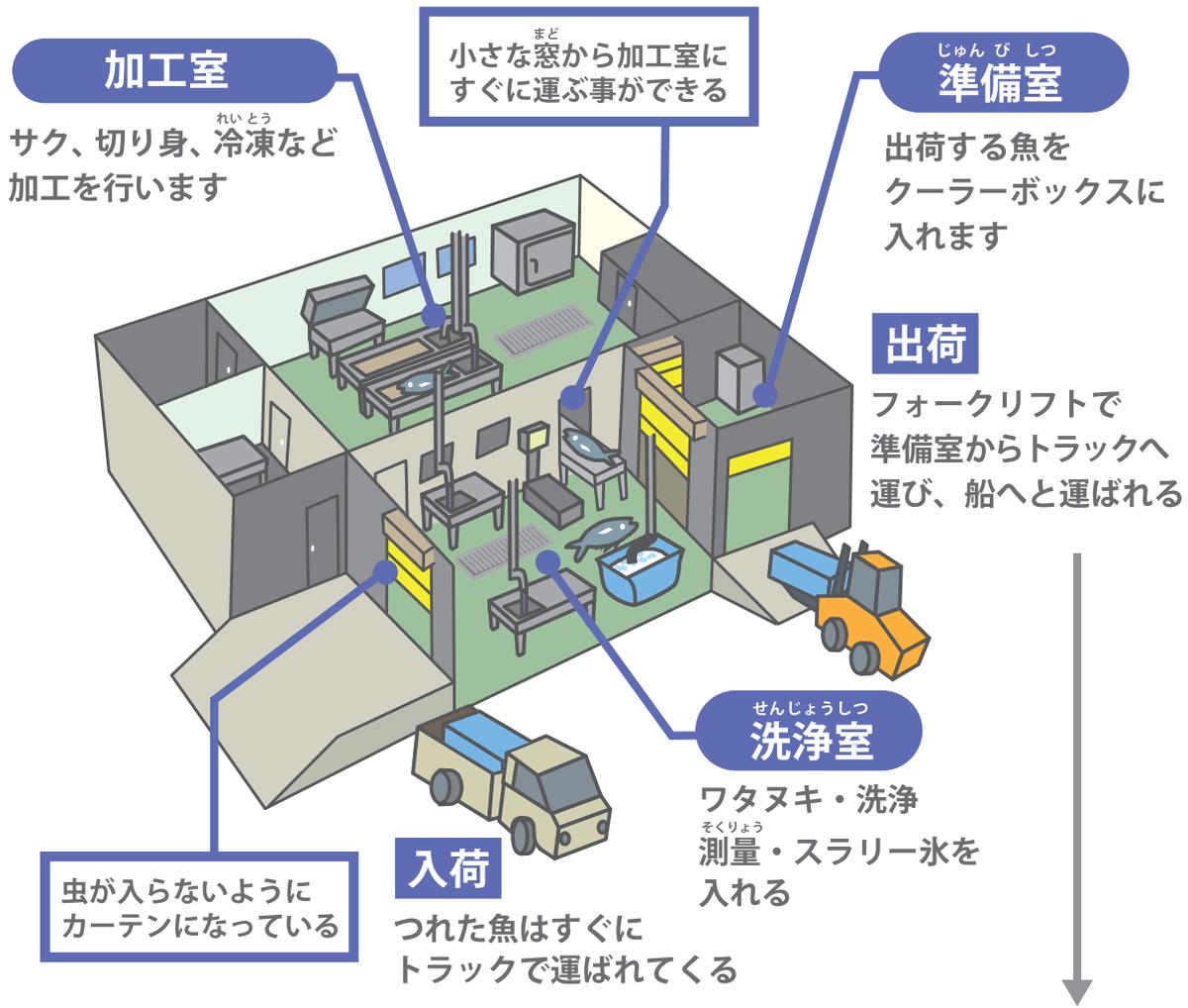
スラリー製氷施設

### チャレンジポイント

北大東島の漁業が、主にマグロ、サワラを対象としてきたのはなぜだろうか。他の魚種を対象とする場合、どんな問題があるかを考えてみよう。

すいさん か こう し せつ  
**水産加工施設**

つれた魚の加工や島外への出荷を行います。  
 島内では島民の食卓、おみやげ、学校給食などに  
 使用され、島外へ出荷された魚はスーパーなどに  
 ならびます。



## 2 島から生まれる食べもの

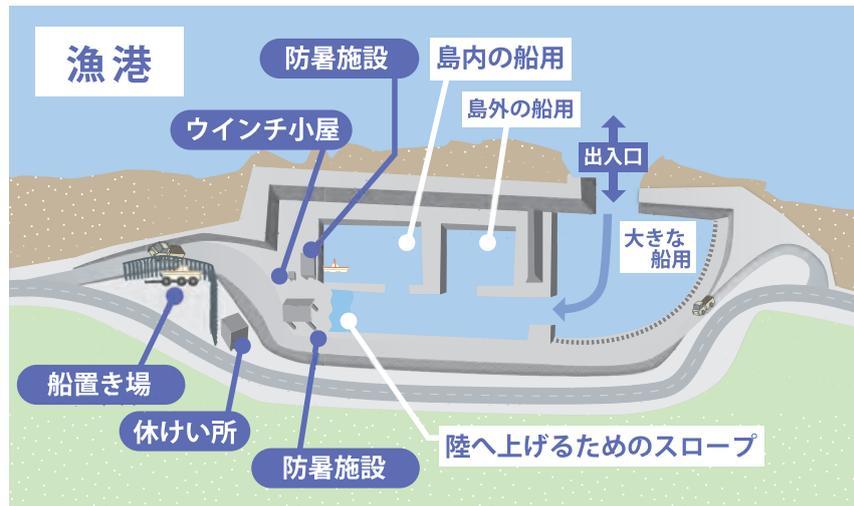
### 漁港の仕組み

南・北大東島には、長い間、漁船が自力で出入りできる漁港がなく、漁業の発展がさまたげられてきました。

一般の漁港では、堤防をつき出して海を囲うようにして、船が停泊できるようにします。しかし、はげしい台風などの影響を受けやすい大東島では、つき出し型の漁港はすぐにこわされてしまうので、世界でもめずらしい掘りこみ式の漁港を整備するしかありませんでした。掘りこみ式の漁港は、島を内側にけずって船が停泊できる場所をつくりだす方法で、多額の費用がかかるため、なかなか実現しませんでした。

南大東島では1989年(平成元年)から漁港の整備が始まり、2008年(平成20年)には主な施設は完成しました。南大東島の漁港は島の北側にあるため、北風が多い冬場には使えない場合もあります。そのため北大東島の南側にもう一つの漁港を整備することになりました。2010年に整備が始まり、2019年に完成しました。

漁港の完成で、漁船を大きくすることが可能となり、水産業の発展が予想されます。他にも、南・北大東島の間で船の行き来がしやすくなるなど、さまざまな効果が期待されています。



### チャレンジポイント

- 1) 南・北大東島の両島にそれぞれ、対面する漁港が必要となったのはなぜか。くわしく考えてみよう。
- 2) 漁港の完成によって、北大東島にどのような影響や効果が生じるのかについて考えてみよう。

## 2 陸上養殖業

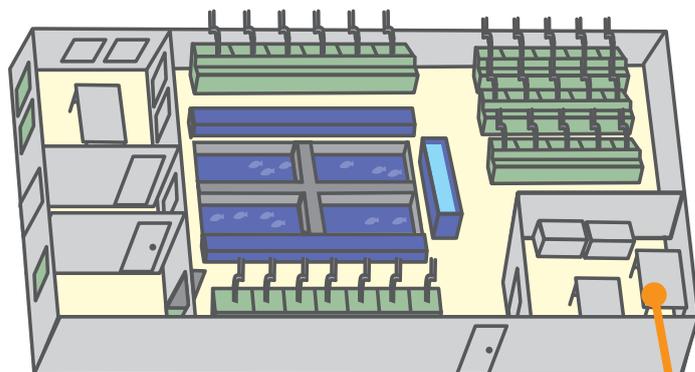
自然環境のきびしい大東島では、悪天候が続いて、長い間、漁ができなくなることがあります。このため、北大東村では2011年(平成23年)から陸上で水産物を養殖する技術の研究開発を行なってきました。2015年には、陸上養殖施設、ふ化施設を整備して、アワビ、ヒラメの陸上での養殖に取り組んでいます。2019年には、はじめてアワビの稚貝のふ化に成功し、完全に北大東島産のアワビを生産できるようになりました。陸上養殖で育てられたアワビ、ヒラメは、沖縄本島のスーパーマーケット、飲食店などに向けて飛行機で出荷されています。



陸上養殖場の内部

### 陸上養殖施設

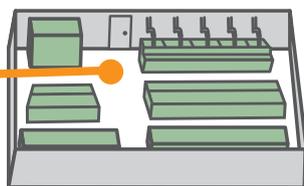
ミネラルを多く含む水でヒラメやアワビを養殖しています。



■ アワビ ■ ヒラメ

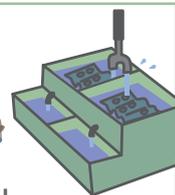
#### 養殖ふ化施設

アワビをふ化させ育てています。



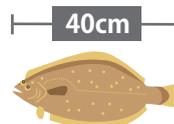
#### アワビ

わかめを食べ育ち、出荷サイズの6~8cmになるまで2~3年かかります。



#### ヒラメ

配合飼料を食べ育ち、出荷サイズ40cmになるまで15ヶ月かかります。



#### 出荷準備室

##### アワビ

真空→冷凍



##### ヒラメ

しめる→真空→冷凍→出荷



### チャレンジポイント

海上養殖に比べて、陸上養殖にはどのような利点があるかを考えてみよう。

# 3 離島に情報が届くまで

## 3 - ① 海底ケーブルでつながる放送・通信

### 海底光ファイバーケーブル

2011年(平成23年)7月の地上デジタルテレビ放送が開始されました。それに間に合わせるため、沖縄本島と南・北大東島の間で放送・通信をつなぐ海底光ファイバーケーブル



と無線の中継局ちゅうけいきょくの整備が行われました。南・北大東村ではそれまで沖縄県内の放送が受信できなかったので、テレビ放送はようやく「本島並み」になりました。

海底光ファイバーケーブルは、沖縄本島と南大東島の間約400kmにわたって約7,000mの深さの海底に設置されています。海底ケーブルの設置は、専用の船を使って行われました。本島—大東島間の海底ケーブルの設置を行う時に使われた船は、NTT関連会社が保有する「SUBARU」です。

海底光ファイバーケーブルは、沖縄本島と南大東島を結び、テレビ・電話・インターネットの通り道になっています。南大東島と北大東島の間は、中継局を通して、無線で放送・通信が伝えられます。

これらのシステムが整備されたことで、テレビ放送では沖縄県内と同じ番組を見ることができるようになりました。また、情報通信でも加入制限がなくなり、速度はそれまでのおよそ10倍となりました。

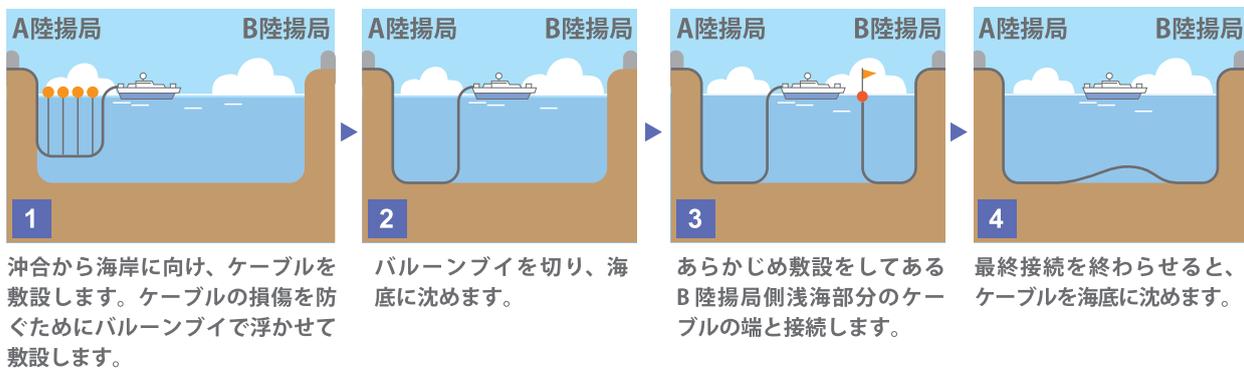
南・北大東島の放送・通信の環境かんきょうは、大きく前進しましたが、沖縄本島—南大東島間の1ルートの海底ケーブルにたよっているため、このルートに故障こしょうがあった

場合には放送・通信が停止するおそれがあります。  
 このため、沖縄本島―北大東島間にもう1ルート  
 を追加して、二重にすることが必要と考えられます。

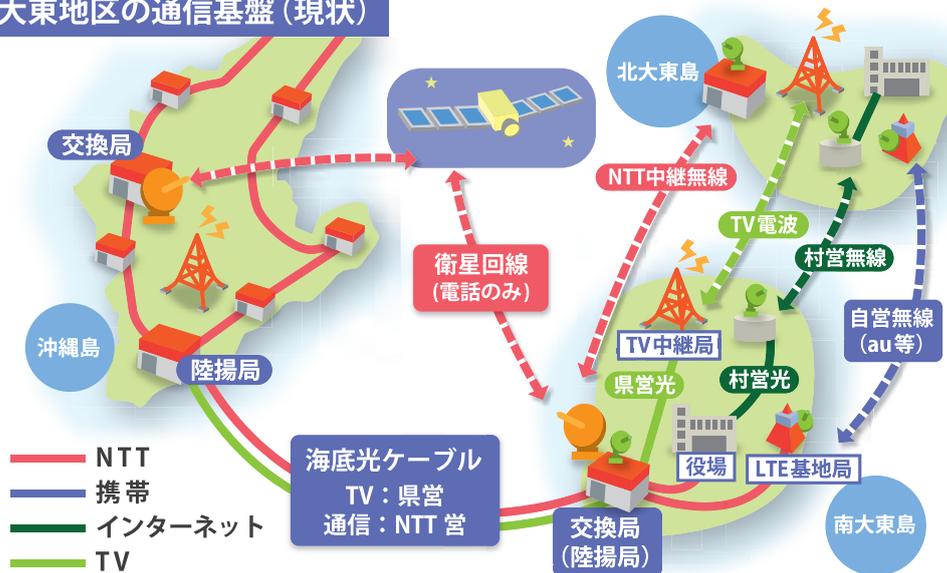


光ファイバーケーブル断面模型もけい

### 光海底ケーブル敷設手順



### 大東地区の通信基盤きばん (現状)



NTTはユニバーサルサービス（固定電話、公衆電話、緊急通報）を維持するため、基盤を二重化（衛星と海底光ケーブル）しなければならない。  
 ※携帯電話、インターネットはユニバーサルサービスには含まれない。

インターネット、LTEは両島間が無線となり、通信の道が細くなるので通信が不安定である上、十分な速度が確保できない。

TV、インターネット、LTEは単ルートのため、既設海底光ケーブルが故障した場合はサービスが停止する。

### チャレンジポイント

海底ケーブルを二重化することはなぜ必要なのだろうか。くわしく考えてみよう。

## 3 離島に情報が届くまで

### 3 - ② 「本土並み」になるまでの放送・通信

北大東島は、沖縄本島から遠く離れた離島です。水道・電気をはじめとした生活に必要な施設である生活基盤の整備はなかなかありませんでした。、さまざまな面で本島とは大きな差がありました。なかでも、放送・通信の差は、なかなか差がうまれませんでした。「本島並み」を目指して、島の放送・通信を発達させてきた歴史を振り返りましょう。

#### ① 放送

2011年(平成23年)7月から、地上デジタルテレビ放送がはじまり、沖縄県内と同じテレビ放送を見ることができるようになりました。

その前の1998年(平成10年)から、地上波5局のテレビ放送の受信は始まりました。しかし、東京都が小笠原村のために整備した通信衛星設備を利用したために、沖縄県内の放送ではなく、東京地区の放送を見ることになりました。

その前は、地上波の放送を見ることはできず、衛星放送を受信していました。

1984年(昭和59年)に衛星放送の受信が開始された時には、島中がお祝いの式典で大いに盛り上りました。この時に見ることができたのは、NHKの地上波2チャンネルとBS1のみでした。



NHK 衛星放送開始記念祝賀会 (1984年)

さらにその前は、放送と同時の受信ができず、本島から空輸されるビデオを夜間2時間だけ放送するものでした。放送は1ヶ月おくれになることもありました。これが島のテレビ放送の始まりで、1975年(昭和50年)のことでした。

テレビ放送が始まる前、情報を得る手段は主にラジオでした。トランジスタラジオが普及する前は、1954年(昭和24年)から1963年(昭和38年)にかけて親子ラジオが放送されました。米軍から配給された設備を使って、役場内で受信した放送を、有線で各住宅の子機スピーカーで流すというものでした。朝、昼、晩の一定時間だけの放送でしたが、新聞・雑誌が大幅におおほばおくれるのがあたりまえだったので、毎日のニュースがすぐ聞けることは大きな進歩でした。



地上デジタル中継局

## ② 通信

海底ケーブルが設置される前は、インターネットは衛星通信で伝えられていました。2008年(平成20年)から村直営のブロードバンドサービスが始まりましたが、当時は通信速度がおそいADSL方式で、回線数も80までと限られていました。

### 3 離島に情報が届くまで

北大東島は、携帯電話が使えるようになったのが県内でもっともおそかった地域でした。1999年(平成11年)にようやく携帯電話の通信がはじまりました。当初はNTTドコモ1社のみでしたが、2013年までに主要3社の携帯電話が使えるようになりました。

家の電話から全国どこへでもすぐかけられるようになったのは1979年(昭和54年)のことでした。1966年(昭和41年)には、郵便局に置かれた電話交換機を通じて、それぞれの住宅から電話がかけられるようになりました。しかし相手の電話回線をつなげる電話交換が必要だったので、通話できるまでに長い待ち時間がありました。それ以前は、島外に通じるのは1963年に郵便局に設置された一台の電話だけでした。

島内で通じる電話は、戦前から島を運営する会社が主要な施設に設置していました。戦後もしばらく使用しましたが、1961年に琉球電信電話公社が島内電話を開通させました。

電話が通じるまでは、島外への通信は、戦前から無線通信が使われました。当時の無線通信局の建物のあとが字港の集落内に残されています。



無線通信局建物あと

### ③ 情報通信を活かした新たな取り組み

情報通信のための環境<sup>かんきょう</sup>が整ってきたので、インターネット<sup>けいたいたんまつ</sup>や携帯端末が利用しやすくなり、島内にはさまざまな変化が起きています。

特に、インターネットを使った買い物が当たり前になり、島にいながら、ほとんどのものを購入<sup>こうにゅう</sup>することができるようになっています。



なかよし塾での双方向授業の様子

情報通信を活かした新たな取り組みとしては、オンライン<sup>そうほうこう</sup>双方向授業があります。2013年(平成25年)から、なかよし塾<sup>じゅく</sup>では、インターネット回線を通じて、島の小・中学生が東京にいる東大生とやりとりしながら授業を受ける取り組みが行われています。

#### チャレンジポイント

- 1) 情報通信の環境整備が進むことで、島内にどんな変化がおこったかを考えてみよう。
- 2) 情報通信を活用してどんなことができるといいかを考えてみよう。

## 4 役場・議会とくらし

### 4 - ① 島のくらしを支える公共施設<sup>しせつ</sup>

島のくらしに必要なけれど、民間の会社が整備・管理することがむずかしい施設<sup>しせつ</sup>は、税金などを使って、国や県、市町村が整備します。このような施設のことを公共施設とよびます。北大東村にある公共施設をさがしてみましょう。

#### 日常生活に不可欠な施設<sup>しせつ</sup>

水道、<sup>はいきぶつしより</sup>廃棄物処理などの日常生活に不可欠な施設です。電気を作って、送る電業所は、沖縄電力が運営しています。



たんすいか  
海水淡水化施設



ごみ処理施設



最終処分場

#### 教育・文化・スポーツの施設

学校、資料館、運動場など教育、文化・スポーツ活動のための施設です。



学校



ようちえん  
幼稚園



みんぞく  
民俗資料館



運動場



スポーツセンター



そんえいじゆく  
村営塾

福祉・衛生のための施設

診療所、福祉施設など福祉・衛生のための施設です。



診療所



歯科診療所



保健福祉センター



複合型福祉施設



理髪店

防災・保安のための施設

駐在所、消防施設など防災・保安のための施設です。



駐在所



消防施設



灯台

交通・物流のための施設

港や道路など交通・物流のための施設です。



県道



港



漁港



村道



空港

# 4 役場・議会とくらし

## 生産の基盤となる施設

農業や水産業の生産の基盤となる施設です。



ため池



ファームポンド



パヤオ

## 居住のための施設

離島での居住を支えるために役場が管理する住宅です。



県営住宅



村営住宅



定住促進住宅

## 行政・自治のための施設

役場、公民館など行政、住民自治のための施設です。



村役場



人材交流センター



公民館

## 産業を振興するための施設

民間の事業を支援したり、直営の事業を行って、産業を振興するための施設です。



月桃加工施設



陸上養殖施設



魚市場



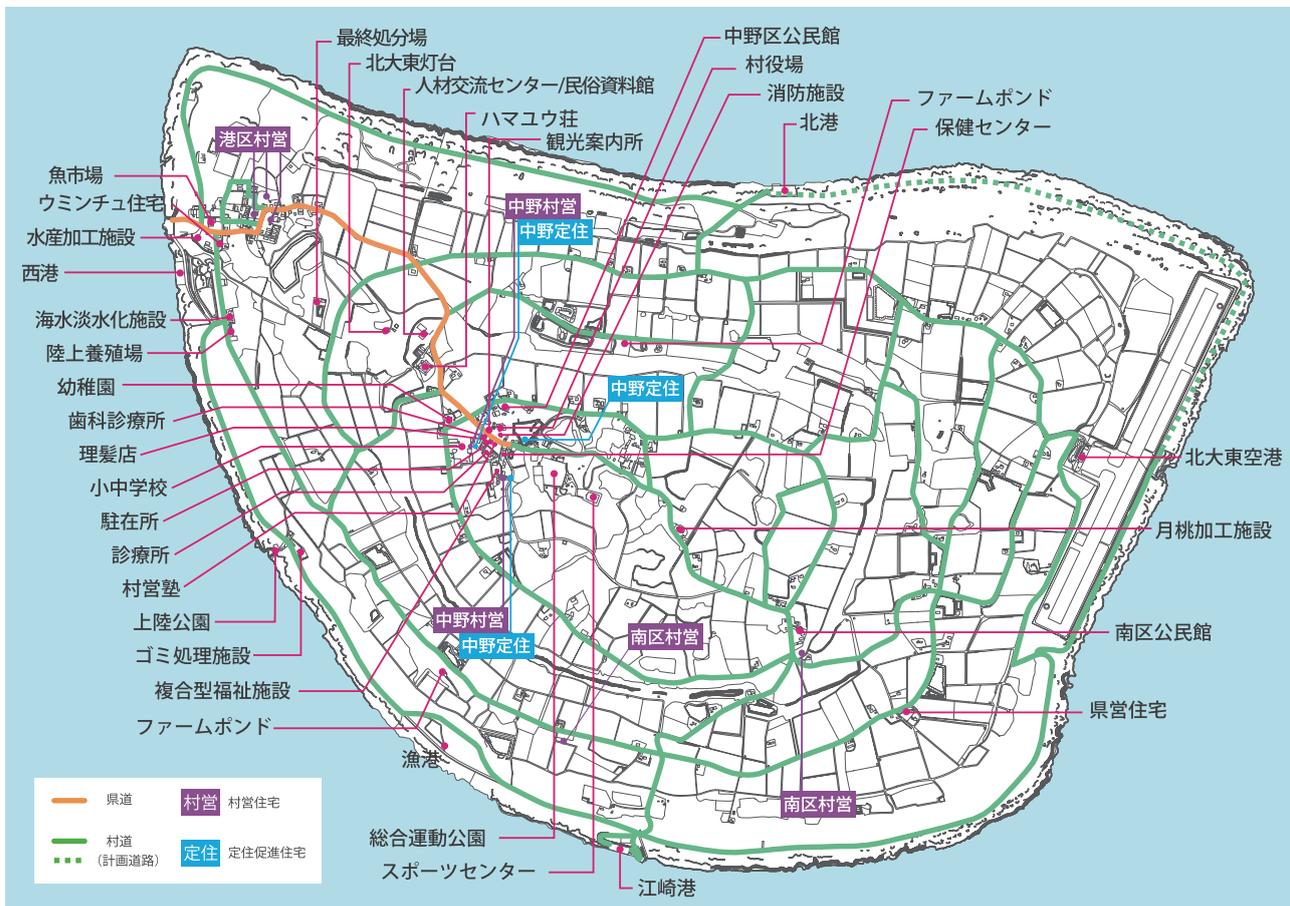
ハマユウ荘



水産加工施設



観光案内所



## チャレンジポイント

- 1) 村が整備・所有していることが不思議だと思った施設はあるだろうか。村が整備・所有しているのはなぜかについて考えてみよう。
- 2) 北大東島の灯台はどんな役割を持っているのか<sup>やくわり</sup>について考えてみよう。

## 4 役場・議会とくらし

### 4 - 2 村役場の組織と財政

#### 1 組織

北大東村の行政事務を行う組織として、村役場が置かれています。

役場は、村長、副村長の下に、分野ごとに5つの課が置かれています。各課には、職員が配置されて、日常の業務を行なっ



北大東村役場

ています。また、村長から独立した機関として、教育委員会などが設けられています。教育委員会では、教育長のもとで、事務局である教育課が教育に関する業務を行なっています。2019年現在、村長、副村長、教育長をふくめて53人の職員(うち嘱託は22人)がいます。

村長は、任期が4年で選挙によって選ばれます。2019年現在の村長は、村制施行以来、20代目・6人目になります。

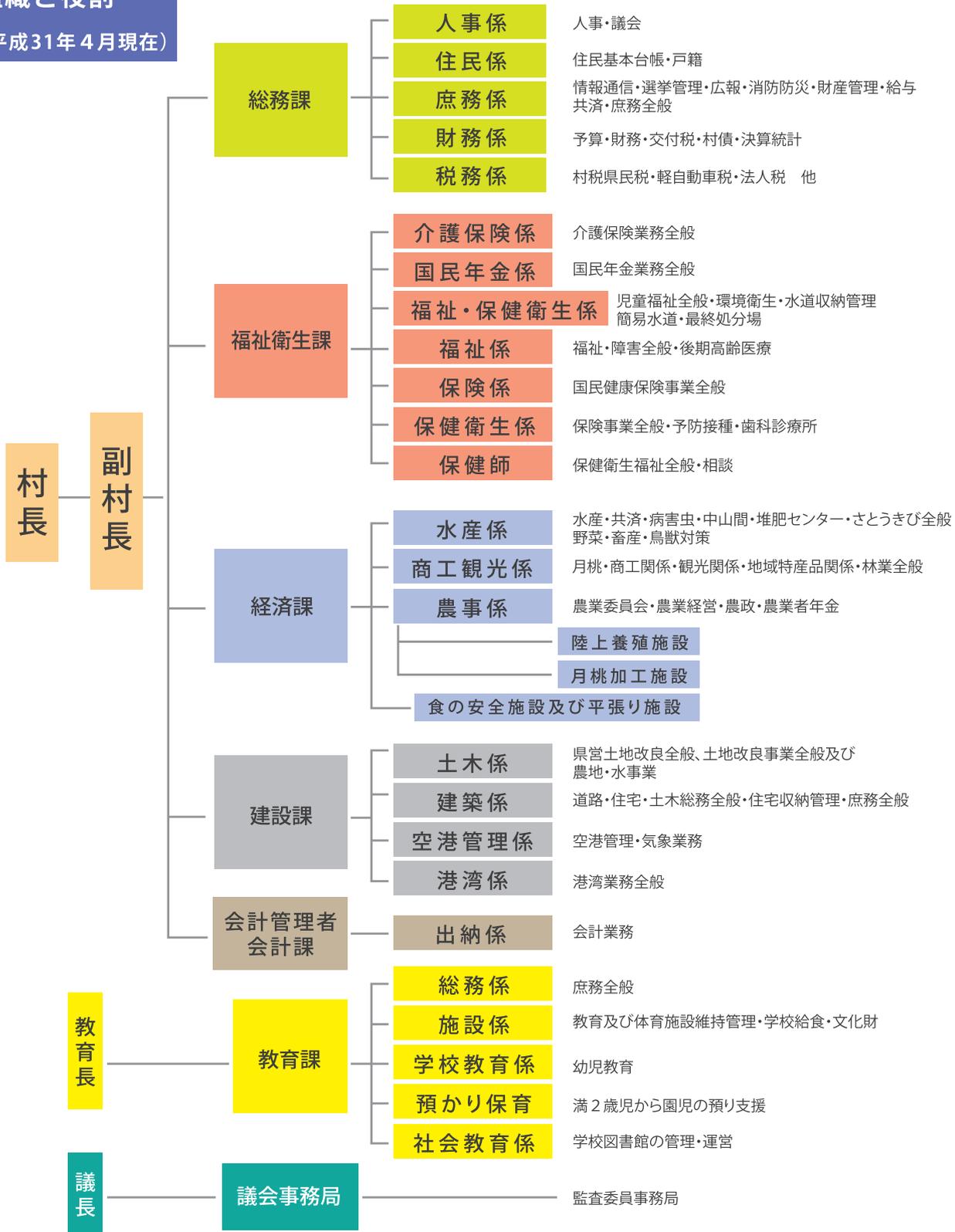
小規模な自治体なので、役場の職員が地域の様々な団体に所属して、通常業務以外にも行事や祭事の準備・運営を担当しています。村には、祭を運営する奉賛会、スポーツ大会を運営する体育協会をはじめ、消防団、青年会など、さまざまな団体があって、重要な働きをしています。

#### チャレンジポイント

4 - 1 の公共施設は、それぞれの課で担当しているかを整理してみよう。

# 北大東村役場の組織と役割

(平成31年4月現在)



# 4 役場・議会とくらし

## ② 収入と支出

2013年度を例にとって、村の収入や支出を見てみましょう。

村の毎年度の収入を歳入さいにゅうといいます。総額は約29億6千万円です。村の直接の収入は、村税といわれる税金ですが、歳入全体のわずか3%です。国や県からもらう交付税や補助金などが76%を占めます。村の借金しょうきんである村債そんさいも10%をしめます。

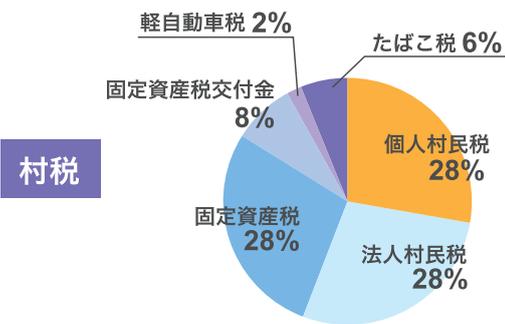
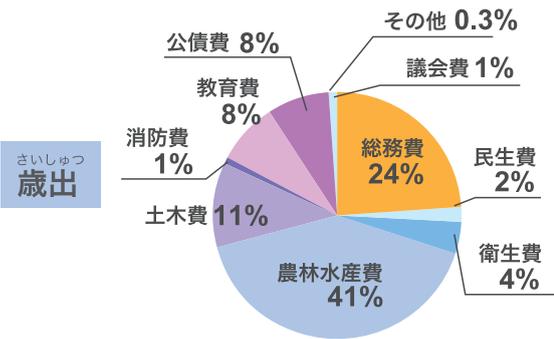
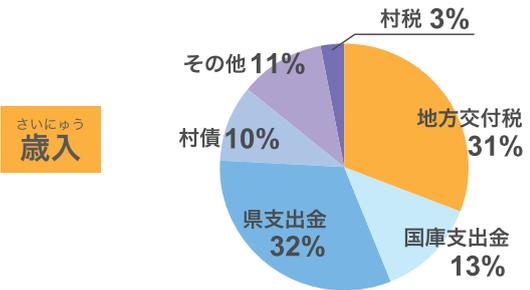
村の毎年度の支出を歳出さいしゅつといいます。総額は約27億1千万円です。農地やため池の整備などに使う農林水産費が41%でもっとも多く、次いで、公務員きゅうよの給与しょうぼうや消防などに使う総務費が24%、道路や公共住宅こうきょうじゅうたくの整備などに使う土木費が11%という順になります。

歳出さいしゅつの金額は、年によって変動しますが、次第に増加する傾向けいこうにあります。

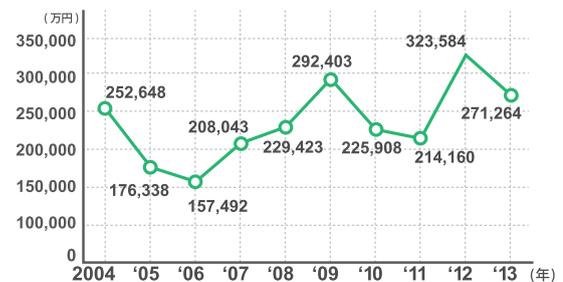
### チャレンジポイント

村税の内訳を見ながら、村税を増やすためにどうすればよいかを考えよう。

### 2013年度(決算)内訳



### 過去10年間の歳出の推移



## 4 - ③ 村議会の役割

### ① 組織

村議会は、条例、予算、決算などの村の方向性に関わる重要な事項を決める機関です。村の行政が適正に行われているか、チェックする役割も持っています。

北大東村議会の議員は5名です。2005年（平成17年）以来、全国最少の規模になりました。議員は任期4年で選挙により選ばれます。また、議長は、議員の中から選ばれます。2019年現在の議長は22代目・12人目に当たります。議会の運営のための事務は、議会事務局が担います。

### ② 議会の進め方

通常、年に4回、定例会（3月、6月、9月、12月）が開かれます。この他に、緊急の議題がある場合には、臨時会を開きます。議会では、議場の中で、議案について質疑が行われます。質疑は、議案に関連して、議員が質問



村議会の様子

を行い、村長または課長以上の管理職の職員が回答するものです。質疑の内容をふまえて、議案について議決が行われます。

#### チャレンジポイント

北大東村の議会の議員は、どんな経験を持った人かを調べてみよう。

# 5 島のくらしを育んだ歴史

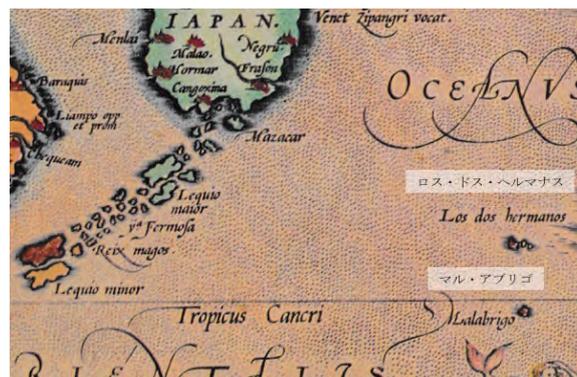
## 5 - ① 大東諸島の発見

沖縄では、昔から、はるか東の海のむこうに神々の理想郷ニライカナイがあると信じられてきました。「うふあがりじま(大東島)」は、はるか東にある島という意味で、伝説の島の名前でした。

大東諸島しょうとうのもっとも古い記録は、1543年に、スペイン人が南・北大東島を発見して、二人姉妹という意味の「ロス・ドス・ヘルマナス」という名前を付けたというものです。古い世界地図には、南西諸島の東の海上に2つならんだ島じまが描かれ、この名前が書かれています。後の地図にはオランダ人が名付けたという「アムステルダム」という名前が書かれたものもあります。

1820年にロシアの軍人が南・北大東島を「ボロジノ諸島しょうとう」と名付けたという記録があります。1853年、江戸幕府えどばくふに開国をせまったアメリカ人のペリー提督ていとくもボロジノ諸島を確認したと記しています。

長い間、無人島であった南西諸島の東にある3つの島が1885年(明治18年)に日本の領土に組み入れられました。この時、伝説の島の名前「うふあがりじま」すなわち「大東島」がこれらの島々に名付けられたのです。



メルカトル「印度位置図」(1575年拡大)



ブラウ「中国日本近傍図」(1650年拡大)



ペリー提督

### チャレンジポイント

大東諸島が、長い間、なぜ無人だったのかについて考えてみよう。

## 5 - ② ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮 㿯 㿰 㿱 㿲 㿳 㿴 㿵 㿶 㿷 㿸 㿹 㿺 㿻 㿼 㿽 㿾 㿿 ̀ ́ ̂ ̃ ̄ ̅ ̆ ̇ ̈ ̉ ̊ ̋ ̌ ̍ ̎ ̏ ̐ ̑ ̒ ̓ ̔ ̕ ̖ ̗ ̘ ̙ ̚ ̛ ̜ ̝ ̞ ̟ ̠ ̡ ̢ ̣ ̤ ̥ ̦ ̧ ̨ ̩ ̪ ̫

## 5 島のくらしを育んだ歴史

北大東島で<sup>りんこうせき</sup>燐鉱石が発見されたため、1910年(明治43年)、半右衛門は燐鉱山の開発を始めました。しかし、技術が<sup>みじゆく</sup>未熟だったために翌年には開発を中止することになりました。そこで、北大東島でもようやくサトウキビ畑の開拓に着手して、現在の役場周辺<sup>いけのさわ</sup>の池之澤から島中に畑を広げていきました。

1910年、半右衛門は玉置商会を設立し代表となりましたが、病のために72才でこの世を去りました。玉置商会は半右衛門の息子たちが受けつぎましたが、次第に事業はうまくいかなくなり、1916年には<sup>せいとう きゅうしゅうがっぺい</sup>東洋製糖に吸収合併されました。

### チャレンジポイント

- 1) 玉置半右衛門はなぜ<sup>かいたく</sup>北大東島の開拓に取り組んだのかを考えてみよう。北大東島の開拓を始める前の玉置半右衛門の経歴を調べてみよう。
- 2) 北大東島の開拓が池之澤から始まったのはなぜかについて考えてみよう。

## ② 東洋製糖・大日本製糖による島の経営

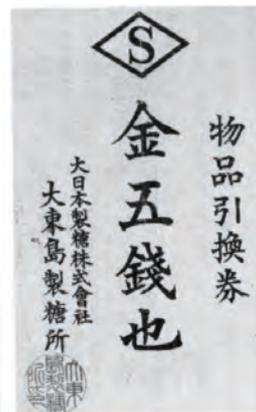
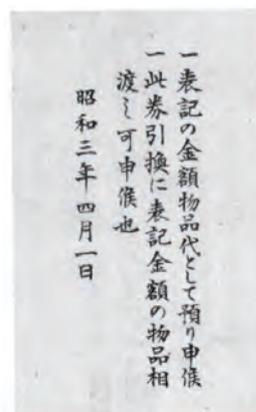
### 民間会社が支配した島の運営



2代目の校舎(昭和初期)

南・北大東島では、1946年(昭和21年)に村になるまで、自治体がありませんでした。島の運営は、玉置商会、東洋製糖(1916年に玉置商会を吸収)、大日本製糖(1927年に東洋製糖を吸収)といった民間企業がすべてをとりしきってきました。玉置は、<sup>はちじょうじま</sup>八丈島からの移民を「島民・親方」、沖縄出身の労働者を「仲間」と呼んで、社員—島民—仲間という上下関係を基本とする社会をつくりました。

小学校、病院、売店といった生活に必要な施設は会社がすべて建設・運営したり、島内のみで流通する金券(物品引換券<sup>ひきかえけん</sup>)をつくって、お金の代わりにしたりしました。人の出入り、樹木<sup>じゅもく</sup>や水産物の利用など、すべてが会社の監視<sup>かんし</sup>のもとに置かれました。東洋製糖、大日本製糖でも、これらの仕組みを引きついで、民間会社が島を運営する時期が続きました。



玉置商会、東洋製糖、大日本製糖が発行した物品引換券



出張所内部の販売所 (昭和17年ころ)



港に水揚げされた魚 (大正後期)

### チャレンジポイント

- 1) 島の社会に上下関係がつけられたのはなぜかについて考えてみよう。
- 2) 物品引換券を使ったのはなぜかについて考えてみよう。

## 5 島のくらしを育んだ歴史

### 土地の払い下げ

玉置商会は島を国から借りていましたが、東洋製糖は国に払い下げを申請して、島を所有しようとしていました。この時、会社と移民たちは対立しました。

移民たちは、玉置半右衛門が移住者を募集した時に、将来は開拓した土地の所有権をあたえるという約束をしたのだから、所有権は開拓した自分たちに与えるべきだと主張しました。しかし、1916年(大正5年)、国は東洋製糖に島を払い下げてしまいました。この問題は、戦後の土地所有権問題につながるようになります。

### りんこうざん 燐鉱山で栄えた島

北大東島では、東洋製糖が1918年(大正7年)に燐鉱山の開発を再開しました。この時、すでにラサ島(沖大東島)では、1911年につねとうのりたか<sup>※1</sup>が燐鉱山の経営を開始しており、国内で最大の産地として栄えていました。北大東島の燐鉱山は、当初、販売に苦しみましたが、ラサ島の燐鉱山が一時営業を停止していた時期に主要な産地になりました。



露天掘りの燐鉱石採掘場(大正後期)



西港の全景。停泊する燐鉱積取船(左)と燐鉱積荷棧橋(通称：象の鼻)

※1 恒藤規隆(1857-1938)：無人島だったラサ島(沖大東島)の開発を行なった人。日本最初の農学博士の1人で、一生を燐鉱の探索と開発に捧げた。

北大東島は大いに栄えて、1928年（昭和3年）には人口が史上最大の2,690人に達しました。 燐鉱石は主に化学肥料の原料として使われ、国の発展に必要な食糧生産を支える重要な資源となっていました。燐鉱石の確保は、主に輸入にたよっていたため、二度の大きな戦争で輸入品の供給がきびしくなった時、ラサ島と北大東島は、燐鉱石の確保にとても役立ちました。



社宅街「燐鉱山」全景（昭和5年頃）

東洋製糖によって燐鉱山が再開された時に、西港の南側の海岸沿いに鉱夫の集落「大正村」が生まれました。燐鉱山の施設が整備されると、社宅街がつくられて「燐鉱山」と呼ばれるようになりました。さらに、1920年代には、社宅街の北側に鉱夫の集落「下坂村」がつけられました。



鉱夫が住んでいた茅ぶき木造住宅が集っていた大正村（大正後期）

### チャレンジポイント

- 1) 恒藤規隆はなぜラサ島の開拓に取り組んだのかを考えてみよう。ラサ島の開拓を始める前の恒藤規隆の経歴を調べてみよう。
- 2) 戦前の日本で燐鉱石はなぜ必要だったかについてくわしく考えてみよう。

# 5 島のくらしを育んだ歴史

## 戦前の糖業



### 大日本製糖時代の地区区分

昭和4年、集落は作業単位に組織され、共同製糖工場と称されるようになる。



サトウキビの収穫 (大正前期)



牛の力を使ったキビの加工 (大正中期)



5カ所にあった戦前の製糖工場のうちの第二工場 (昭和6年頃)

玉置商会の時代の開拓は、会社直営で行ったために、なかなか進みませんでした。東洋製糖が小作制※1に切りかえたために、開拓は一気に進みました。

1917年(大正6年)には、池之澤村、西村、東村という3つの集落が生まれ、1926年ごろには、丸山村、南村ができました。

東洋製糖の時代には、3、4戸の小作人が組合をつくって、収穫から製糖までを共同で行いました。サトウキビをしぼる作業では、牛を動力とした機械を使いました。

大日本製糖が島の経営を引き継いだころには、123もの小さな製糖工場がありましたが、1929年(昭和4年)以降、電気を動力にした5つの工場にまとめられました。この頃には、集落の名称は工場の名前で呼ばれるようになりました。

※1 小作制：農地を所有せず、持ち主から借りて農作物を育てる仕組み。農作物を育てる人を小作人と呼び、収入の一部を持ち主に小作料として支払う。

池之澤村と丸山村が「第一工場」、西村が「第三工場」、東村が「第四工場」となり、南村は分かれて「第二工場」と「第五工場」になりました。

### チャレンジポイント

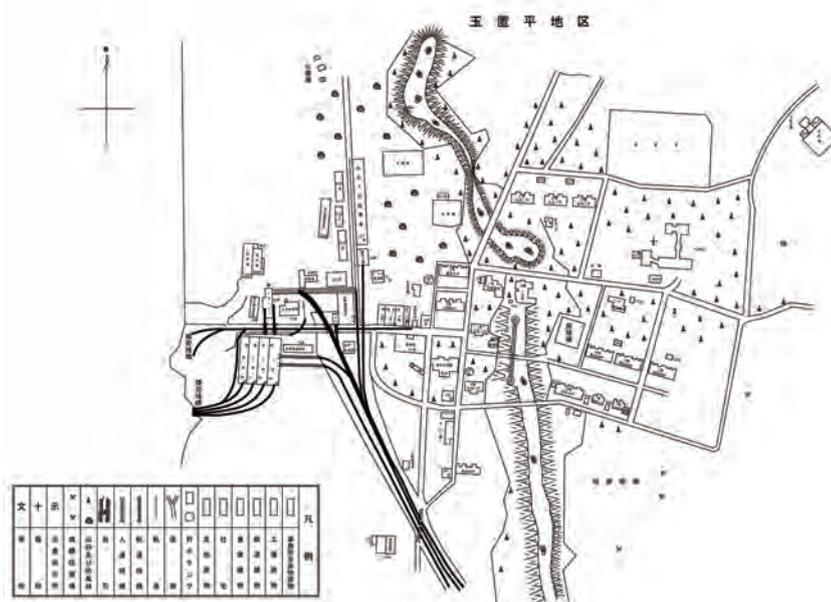
- 1) 小作制度の導入で開拓がなぜ進んだのかについて考えてみよう。
- 2) 島では牛はさまざまな役に立ってきた。どのような役割を担ったのかを調べてみよう。また、現在では、牛はなぜいなくなったのかを考えてみよう。

### 戦前の会社の施設

第二次世界大戦当時に大日本製糖が所有した施設の配置図があります。

隣鉱山の生産施設や社宅のほか、病院、学校、じゅんさ ほしゆつじょ 巡査派出所が確認できます。

また、運動場、庭球場、クラブ(囲碁、将棋、ビリヤードができる施設)といった娯楽施設も設けられました。庭球場では、たまに映画上映会が行われてにぎわったと言います。これらの施設は、すべて会社が建設し、運営しました。



北大東島建物配置図（昭和16～20年の間）

### チャレンジポイント

- 1) 会社が所有していた施設がどのような役割を持っていたかについて、調べてみよう。
- 2) 会社が所有していない建物には、どのようなものがあつたのかを調べてみよう。

# 5 島のくらしを育んだ歴史

## コラム 島の王様・出張所長



山成不二磨

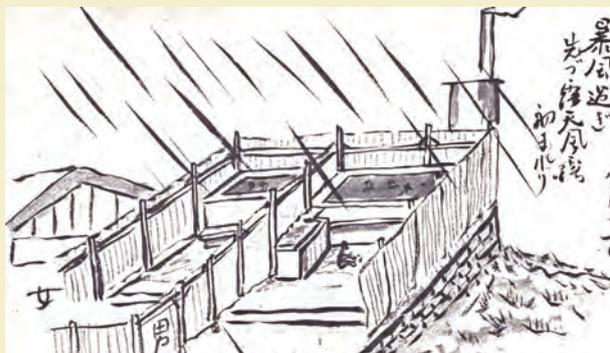
南大東島には製糖所<sup>せいとうじょ</sup>、北大東島には出張所が置かれ、それぞれの所長は、島の経営を取り仕切る立場にあり、いわば小さな王様として、島の人々の頂点<sup>ちやうてん</sup>にありました。この中で、ユニークな人物として、大日本製糖の2代目出張所長である山成不二磨<sup>やまなり ふ じまろ</sup>を取り上げます。山成は、地質学者であり、北大東島の燐鉱石について研究し、多数の論文<sup>ろんぶん</sup>を書く一方で、島の風物をスケッチして、絵画帳として残しています。この一部を掲載<sup>けいさい</sup>しますので、何が書かれているかを読み取ってみましょう。この他に、現在まで残されているスケッチはすべて『北大東村誌』に掲載されています。



1904年4月  
北成大島  
山成所長



七月  
海水浴



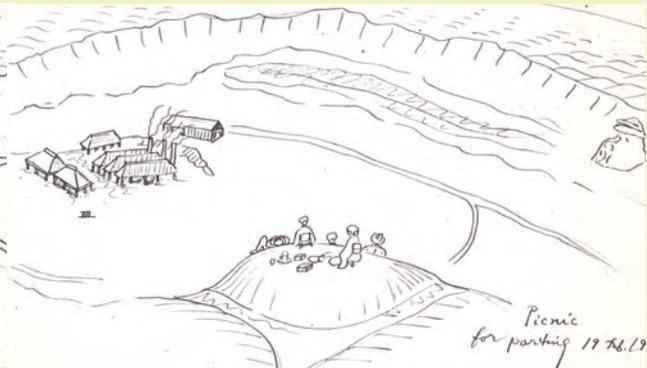
暴風  
露天風呂

左上：黒部岬近くの船着き場に係留された「はしけ」から上陸する山成所長の家族達  
右上：船揚げ場で海水浴を楽しむ  
左下：「暴風が過ぎてまず露天風呂<sup>ろてんぶろ</sup>が始まった」と記されている



左：「暴風で戸がふくらみ、かんぬきがきかない。  
くらぶに  
倶楽部まで逃げた」

下：小高い丘から煙が上がる3つの製糖工場を  
おか けむり  
望むピクニック中の家族。右はしに天狗岩。  
てんぐ



## 5 - 3 島の戦争

### 戦争の影

1941年(昭和16年)に始まった太平洋戦争の影響は、1943年には大東島にも及び、南大東島に建設される新滑走路の工事のために、北大東島からも人夫として働きに行

くようになりました。1944年の3月と4月に、燐鉱石の積出船が潜水艦から魚雷の攻撃を受けて沈没し、多数の死傷者を出しました。

1944年(昭和19年)、大東諸島に日本軍の守備隊が配置されました。3つの島それぞれに配備するために、3隊編成で、43隻の大小の船舶に兵士が乗りこみ、大東諸島を目指しました。



戦地に行く島民を見送るようす(昭和14年頃)

## 5 島のくらしを育んだ歴史

北大東島には、須永力之助隊長のもとに、陸軍1,010人、海軍519人が配備されました。兵隊の宿舎として、学校の校舎、社宅、製糖工場、民家が提供されました。学校の授業は屋外の木かげで行い、家を空けわたした住人は小屋に住みました。

### 引き揚げ

守備隊が上陸した後、残留を指示された者以外は、島から引きあげることになりました。社員は本土へ、沖縄出身者は本島へと引きあげが続きました。沖縄本島には敵の上陸があると考えて、沖縄からの疎開※1を引き受けていた宮崎県、大分県に向かった者もいました。最初は、沖縄本島への直行便がありましたが、後には奄美大島を目指すようになりました。奄美大島でも空襲にあって、死亡・負傷した者もいました。奄美大島から本島に向かう途中で銃撃を受けて死亡した者もいます。

引きあげは1945年(昭和20年)3月まで続き、2,000人近くいた島民は700人余りに減少して、守備隊の人数が島民の数を大きく上回るようになりました。

### 陣地づくり

守備隊がもっとも力を入れたのは、陣地づくりで、島民も総出で手伝いました。特に水際陣地は力を入れてつくりました。水際陣地とは、海岸沿いの岩場に穴を開けて、銃でねらえるようにしたものです。防空壕として使うために、自然の洞窟



守備隊本部壕の遺構

を利用したり、長幕のふもとなどに新たに穴をほったりしました。兵士たちの通行のために、戦車壕、交通壕と呼ばれる掘割※2もはりめぐらされました。

※1 疎開：敵襲による被害を避けるため、より安全な場所へ分散・移動すること。

※2 掘割：ここでは地面を掘って作った通路。

黄金山の中腹の掘割道には、隊長が指揮をとる本部壕がつくられました。本部壕のあとは、現在も完全な形で残っています。

この時、造られたものは陣地だけではありません。1945年2月から5月にかけて、兵士と島民が協力し、海の安全を祈願して金刀比羅宮が建立されました。

### 戦争の被害

1944年(昭和19年)8月より、敵機<sup>らいしゅう</sup>の来襲を知らせる警報<sup>けいほう</sup>がよく出されるようになりました。敵機<sup>こうかくほう</sup>を高角砲<sup>げきつい</sup>で撃墜したこともありましたが、アメリカ軍の仕返しが激<sup>はげ</sup>しかったので、攻撃<sup>こうげき</sup>しないことになりました。



出張所遺構の壁に残る銃撃のあと

1945年3月からは本格的な空襲がはじまり、第四製糖工場が全焼するなど、複数の施設が被害を受けました。艦砲射撃<sup>かんぱうしゃげき</sup>や空襲<sup>くうしゅう</sup>により、貯蔵庫、出張所などの主要な施設<sup>しせつ</sup>が壊<sup>こわ</sup>され、砂糖倉庫が全焼しました。

6月23日、沖縄における日本軍の組織的<sup>せんとう</sup>戦闘は終結し、8月15日、終戦となりました。大東島への情報伝達はおくれ、25日になってようやく守備隊の任務<sup>かいじょ</sup>は解除されました。終戦後も少年兵としての訓練が続いていたと、当時少年だった島民が証言しています。

10月には米軍<sup>とうちやく</sup>が到着し、兵器<sup>だんやく</sup>や弾薬が西港から捨てられ、守備隊の兵士は復員船で引きあげていきました。

### チャレンジポイント

- 1) 疎開<sup>そかい</sup>がなぜ必要だったかについて考えてみよう。
- 2) 守備隊の本部壕あとに入って、当時の苦勞を想像してみよう。

## 5 島のくらしを育んだ歴史

### 5 - ④ 村の誕生と土地所有権運動<sup>しよゆうけん</sup>

#### ① 村の誕生と燐鉱山の閉鎖<sup>へいさ</sup>

##### 村の誕生

戦前、北大東島には自治体がなかったので、島民には沖縄県会議員<sup>せんきょけん</sup>の選挙権もありませんでした。村制<sup>しこう</sup>が施行され、北大東村<sup>たんじょう</sup>が誕生したのは、1946年(昭和21年)6月12日のことでした。

村制の導入を実行したのは、当時の行政機関である民政府の民政官<sup>※1</sup>に任命された福島民夫<sup>ふくしまたみ お</sup>でした。たまたま燐鉱<sup>りんこう</sup>の調査に来ていた民間人が、知事代理に相当する権限<sup>あた</sup>を与えられたのです。福島は、まず、各地区の長を新たに区長に任命しました。次に、区長<sup>すいせん</sup>たちの推薦によって、出張所の経理責任者<sup>まえしろ か たつ</sup>だった前城嘉達<sup>まへしろ か たつ</sup>を初代村長に任命しました。各地区は、5つの行政区に再編されました。池之澤区(それまでの第一工場)、北区(第三・第四工場)、南区(第二・第五工場)、西区(燐鉱山・下坂村)、大正区<sup>くわ</sup>の5つです。区割りは、1950年に、中之区(池之澤区・北区)、南区、港区(西区・大正区)の3つに改められて、現在の3つの字と同じ形になりました。

##### 燐鉱山の再開と閉鎖<sup>へいさ</sup>

戦争により中断していた燐鉱の積み出しは、1946年2月に再開されて、島には活気がもどってきました。村制導入の際に、大日本製糖の資産はすべて軍政府<sup>※2</sup>により取り上げられました。軍政府のもとで、民政府の大東支庁燐鉱課の所管として北大東島鉱業所が置かれ、燐鉱山の経営が再開されました。鉱業所の運営をにぎるために、軍政府は軍人<sup>はけん</sup>を島に派遣<sup>ちゅうい</sup>しました。最初はガン<sup>ちゅうい</sup>中尉、次いでサンチェーズ技師でした。

※1 民政官：当時の行政機関である米国民政府（「付録2」参照）の民政副長官の補佐役として置かれた役職。

※2 軍政府（米軍政府）：終戦後の沖縄におけるアメリカ軍による政府。1950年廃止され、民政府となる（「付録2」参照）。

軍政府は、ブルドーザー、スクレーパーなどの大型機械を導入して、人力で行なっていた採掘をもっと効率的にしようとしていました。サンチェーズ技師は積み出しを効率化するためにベルトコンベアを導入しようとして、貯蔵庫のトンネルを割ってしまいました。そのあとは、現在も貯蔵庫の遺跡に残っています。大型機械で採掘を行ったために、良い燐鉱石を選別することができず、北大東島の燐鉱石は品質が低下し、売れ行きが悪くなっていきました。このため、1950年に燐鉱山は閉鎖されることになりました。



割られた貯蔵庫あとのトンネル

### チャレンジポイント

- 1) 会社が島の運営をしていた時代と村制が導入されたあとの時代ではなにがちがうのかについて考えてみよう。
- 2) 燐鉱山が閉鎖されたのはなぜかについてくわしく考えてみよう。

## ② 土地所有権問題と糖業の発展

### 土地所有権問題

戦後すぐに、南・北大東の村が直面したのは、土地の所有権を<sup>かくとく</sup>獲得するための<sup>たたか</sup>闘いでした。5-2 ②の「土地の<sup>はら</sup>払い下げ」(40ページ)のところでお話したように、土地を移民に与えるという玉置半右衛門の約束は果たされていませんでした。このため、島の農民の中には長い間、不満がたまっていました。



土地所有権獲得のための集会 (1959年)

## 5 島のくらしを育んだ歴史

1951年(昭和26年)に、米国政府が取り上げていた大東島の土地の所有権を大日本製糖にもどそうとしたために、大東島の人々は強く反発しました。

それから、土地所有権をめぐる南・北大東村<sup>たたか</sup>の闘いは、1964年(昭和39年)までの14年間におよぶこととなります。1951年から6年間で5回にわたる陳情<sup>ちんじょう</sup>、1959年からの村・大日本製糖・キャラウェイ高等弁務官琉球政府<sup>※1</sup>の三者による2年間4回にわたる会談が重ねられました。しかし、会社と両村はそれぞれ所有権を主張して折り合うことはありませんでした。



そこに登場したのが、当時の琉球列島米国民政府のキャラウェイ高等弁務官でした。キャラウェイは、1961年に両村の陳情を受けて、問題の解決に強い意欲を示しました。このため、1963年に米国民政府土地裁判所<sup>さいばんしょ</sup>において審議<sup>しんぎ</sup>が開始されました。8回の審議を経て、1964年に農民に対して土地所有権を全面的<sup>みと</sup>に認める採決が下されたのです。あまり評価の不高いキャラウェイですが、南・北大東島にとっては大恩人となりました。

### 糖業主体への産業の転換

磷鉱山<sup>りんこうざん</sup>を閉山したため、島を支える別の産業が必要になりました。そこで、サトウキビ<sup>さいばい</sup>を栽培し、製糖を行う糖業に一層力を入れるようになりました。

戦前に600haに達していた農地の多くは、戦争の際に荒れ地<sup>あち</sup>にもどり、1950年(昭和25年)には155haにまで減少していました。失業した鉱山の労働者にも荒れ地を割り当てて、耕地を増やそうと努力した結果、1964年(昭和39年)には430haまで増加しました。

※1 琉球政府：1952年4月1日に設立された沖縄住民側の中央政府（「付録2」参照）。

従来の製糖設備では足りなくなつたので、1959年には大型の含蜜工場が完成しました。農家は製糖作業から解放され、獲得した自らの土地でサトウキビの栽培に専念できるようになったので、収穫はさらに増加しました。



しかし、大東産の黒糖は塩分濃度

大型の含蜜工場（昭和34年ごろ）

が高いために価格が低下してしまいました。塩分の分離が可能な分蜜糖に変える必要が生じたので、1966年に分蜜工場に増改築しました。

一時期、人手不足から台湾、韓国から労働者を受け入れていましたが、1972年（昭和47年）以降、ハーベスター（かり取り機械）を導入して、機械化を進めてきました。さらに、1983年（昭和53年）以降は、機械化に対応できるように畑を大きく整った形に変え、干ばつに耐えられるように、ため池やかんがい施設を整備する農業基盤の整備が進んできました。

これらの取り組みによって、サトウキビの生産は次第に安定していきています。また、サトウキビ畑は、3、4年に1回程度休ませる必要があるため、輪作作物として、1992年（平成4年）からはジャガイモ、2005年（平成17年）からはカボチャの栽培も導入しています。

### チャレンジポイント

土地所有権の獲得はなぜ必要だったのかについて考えてみよう。

# 5 島のくらしを育んだ歴史

## 5 - ⑤ 本土復帰とくらしの変化

### ① 海と空の交通

#### 海上交通の移り変わり

戦前は、会社の用意した船が月に1回程度、本土から人や物資を運んできました。航路は、大阪から、北九州市の門司を経て、大東島に着き、いったん東京にもどって、大阪に帰るというものでした。1月から5月にかけては、<sup>りんこうせき</sup>燐鉱石の積出船が7、8回ほど、本土から入港しました。

沖縄本島との間でも年に4、5回、労働者の出入りや物資の搬入のために会社の用意した船が行き来していました。これらの船が入港する西港は、出入りの人や迎え・送りの人、物資の荷役のためにととてもにぎわいました。

戦後、<sup>へいさ</sup>燐鉱山が閉鎖されると、一時、海上交通が途絶えがちになり、<sup>しょくりょう</sup>食糧不足におちいることもありました。民間の海運業者が航路を引き継いでくれたので、島の生命線はつながられました。最初のころは、小さな木造船だったので、不幸にも難破してしまったこともありました。航路は命がけで守られたのです。

1986年(昭和61年)には、南・北大東村が共同で大東海運株式会社を設立し、定期船「だいとう」が就航しました。現在の「だいとう」は2代目で、2013年(平成25年)に就航したものです。



開港当時の西港（大正後期）



初代の「だいとう」

年間を通じて風下<sup>かざしも</sup>になりやすい西港が、定期船の入港に多く使われます。風向きによっては、戦後に整備された江崎港、北港が利用されることもあります。

北大東島の港は外海に直接面しているために、船を接岸することができず、人の乗り降りも荷役も、開拓の当初から一貫<sup>いっかん</sup>してクレーンなどの設備を使い<sup>かいたく</sup>て行ってきました。港の荷役の方法は、当初の3本マストクレーンにはじまり、戦後にはワイヤー荷役から1本マストクレーン、さらに現在のクレーン車へと変化してきました。

2019年に漁港が開港しましたが、定期船は引き続き、従来<sup>じゅうらい</sup>の港を利用することから、空飛ぶ荷役の風景は今後も続いていくことになります。



ワイヤー荷役のようす  
(昭和38年ごろ)



マストクレーンによる荷役  
(昭和50年ごろ)

## 空路の発達

南大東島に、定期航空路が開かれたのは1967年(昭和42年)のことでした。北大東島からは、サバニやモーターボートでいったん南大東島にわたる必要がありました。1971年に北大東島に簡易滑走路<sup>かんい かっそうろ</sup>が整備されると、村の有志が出資して4人乗りセスナ機<sup>こくにゅう</sup>を購入して、南・北大東島間の往復に利用しました。



左：南北大東島間をつないだセスナ機  
(昭和50年ごろ)  
右：北大東空港の就航  
一号機(昭和53年  
ごろ)

## 5 島のくらしを育んだ歴史

北大東島に本格的な空港が整備され、定期便が就航したのは1978年のことです。当初は19人乗りでいつも満席という状態でした。1995年(平成7年)に滑走路が延長されて、39人乗りの飛行機が就航し、混雑は緩和されました。

2016年(平成28年)には、さらに50人乗りの飛行機が導入されて、貨物室も大きくなりました。悪天候が続いて、定期船「だいとう」が入港できない期間が長引いた時でも、航空機で緊急物資を運ぶことができるようになりました。

### チャレンジポイント

- 1) 島の西の端に最初に港がつけられたのはなぜかについて考えてみよう。西港、江崎港、北港、漁港はそれぞれどのような役割があるのかを調べよう。
- 2) 現在の50人乗りの航空機は、本来の座席数をけずって、貨物室を大きくしたが、なぜそのような改造をしたのかについて考えてみよう。

## ② 電気と水道

### 全島電化

戦前、西港に近い社宅街には、島でただ一つの発電施設があり、夜でも電気の光が灯って、明るかったといわれています。一方で、島の大部分は電気が通じず、夜はランプの灯りにたよっていました。

燐鉱山が閉鎖されると社宅街の発電施設も役目を終えましたが、島の中心部の池之澤に住む有志が自家発電を始めました。次第に遠くの地区にも送電したのですが、遠方では電圧が低下してたよりない光になったと言います。

発電施設の管理は農協に引きつがれて、1964年(昭和39年)にようやく全島で電気が通じるようになりました。



全島電化を祝うパレード(昭和39年)

当初は4時間のみの送電でした。24時間送電が実現したのは、本土復帰後に沖縄電力が事業を引きついだ1972年のことでした。料金もふくめて、電力については「本島並み」が実現しました。

### 海水淡水化

北大東島には川がなく、池や沼もわずかしありません。中央の低地に井戸はありましたが、水は塩分をふくんでいて、飲料水には適しませんでした。このため、飲料水の確保には、長い間、雨水をためるタンクを用いてきました。戦前、会社は社宅街や鉦夫村にコンクリート造の貯水タンクを多数設置しました。いまでも、鉦夫用共同浴場あとの背後に、当時のタンクを見ることができます。

農夫は、自前でタンクを用意しましたが、茅ぶきの屋根で受けて雨水をためたため、水は茶色くて少しにおったといいます。タンクに鯉を放して、水質を確認した家もありました。

戦後は民家でも鉄筋コンクリート造のタンクを設けるところが多くなりました。琉球政府時代に、字ごとに1つずつ建造した共同タンクが現在も残っています。

貯水タンクにたよっていたころは、雨が降らない日が続くと水ききんになやまされることがありました。このため、海水淡水化施設を建造することになり、1985年(昭和60年)には簡易水道が整備され、送水が開始されました。水道の維持には費用がかかるので、水道料金は本島よりもかなり高く、「本島並み」はまだ実現されていません。

### チャレンジポイント

生活面で、本島との格差は解消されているだろうか。解消していないとすれば、何が必要なかについて考えてみよう。



鉦夫用共同浴場あと

# 5 島のくらしを育んだ歴史

## 5 - 6 燐鉱山の時代を伝える文化財

### 1 北大東島燐鉱山遺跡

北大東島のくらしは、長い間、無人島だった島が燐鉱石の産地として栄え、人々が定住するようになったという歴史の中で育まれてきました。燐鉱山は1950年(昭和25年)に閉山しましたが、当時の施設の遺跡を現在も見ることができます。

現在見ることができるのは、採掘場、運搬のためのトロッコ軌道、乾燥させるドライヤー建屋、貯蔵庫、積荷棧橋などの遺跡です。遺跡をめぐることで、採掘から、運搬、加工、貯蔵を経て、積出しにいたる当時の燐鉱石の生産の仕組みを学ぶことができます。北大東島のような燐鉱山の遺跡は、国内には他にはなく、貴重な文化財です。このため、北大東島燐鉱山遺跡は2017年(昭和29年)に国の史跡に指定されました。

この遺跡がある場所は、台風、高潮などの影響を受けやすいため、遺跡の損傷や劣化が年々進んでいます。特に、北大東島の景観のシンボルでもある貯蔵庫の石積みは、損傷が進んでおり、2018年の台風で大きくくずれました。これ以上の損傷を受けないように補強するなど、現在の姿を保つための対策が進められています。



採掘場あと



トロッコ軌道あと



ドライヤー建屋あと



貯蔵庫あと



積荷棧橋あと



貯蔵庫の復元イメージ

今後は、当時の姿に復元したり、見学しやすいように経路を整備したりして、遺跡を学習、観光などに活用していく必要があります。

## ② 燐鉱山由来の文化的景観

燐鉱山には、生産施設だけではなく、事務所・倉庫などの会社の施設、燐鉱山で働いた人々の住宅、生活や娯楽のための施設、人の出入りや物資を運び入れるのに使われた港の施設などがあります。これらの施設を活かしながら、島の人々は遠隔離島に定住する基礎を築いていきました。燐鉱山の時代に築かれた社宅街や周辺の景観は、現在も島の人々の毎日の暮らしの中に受けつがれています。わたしたちは、その景観を未来へと引きつぐ役割を持っています。字港の集落全体の景観は重要な文化財として評価され、2018年(平成30年)に国の重要文化的景観に選定されました。

島の司令塔の役割をになった出張所をはじめ、社員や鉱夫が利用した共同浴場、発電所、娯楽施設、社宅など、燐鉱山時代の暮らしを支えた施設のあとが現在も残っています。社宅、魚市場、娯楽施設などの一部は、現在も住宅や宿泊施設として活用されています。



出張所あとを復元・利用した施設



娯楽施設あとを利用した施設



発電所あと



社員用共同浴場あと



戦前の魚市場あとを利用した住居



社宅あとを利用した住居

# 5 島のくらしを育んだ歴史



出張所の建物は戦争中に破壊され、長い間<sup>はいきよ</sup>廃墟となっていました。2016年に当時の姿<sup>すがた</sup>に復元されました。内部は、燐鉱山に関する文化財の解説・展示施設、飲食施設として活用されています。このように、集落の景観を守り、当時の建物を直して、うまく使

うことで、観光や居住のために活用することができます。

## チャレンジポイント

- 1) 文化財を大切にするためになにができるかについて考えてみよう。
- 2) 文化財を活用して、どんなことができるかについて考えてみよう。

## 北大東村の歴史年表

(付録1)

時代区分	西 暦	和 暦	主な出来事	
開拓前時代	1543	—	スペイン人が大東諸島を発見・命名。最も古い記録。	
	1820	—	ロシアの軍人が南・北大東島を「ボロジノ諸島」と命名。	
	1853	—	アメリカのペリー提督がボロジノ諸島を確認。	
	1885	明治18	沖縄県令が派遣した調査団が国標を建立。	
会社時代	玉置時代・開拓期	1900	明治33	開拓団が南大東島に上陸。
		1903	明治36	北大東島開拓の意思表示のためにサトウキビ8株植付け。
		1910	明治43	玉置商会在北大東島で燐鉱石採掘を開始。
		1911	明治44	恒藤規隆がラサ島で燐鉱石採掘を開始。北大東島の林鉱石採掘を中止。サトウキビ畑の開墾開始。
	東洋製糖時代	1916	大正5	東洋製糖が玉置商會を吸収合併。島の経営を引き継ぐ。
		1917	大正6	東洋製糖が大東島の土地を払い下げを受ける。
		1918	大正7	北大東島に尋常小学校分校を設置。燐鉱石採掘を再開。
		1919	大正8	燐鉱山の設備が完成し、燐鉱石採掘に本格的に着手。
		1927	昭和2	大日本製糖が東洋製糖を吸収合併。島の経営を引き継ぐ。
	大日本製糖時代	1928	昭和3	人口が最大の2,690人を記録。
		1935	昭和10	東北帝国大学の試錐調査が深度430mを記録。
		1944	昭和19	守備隊が上陸。戦争疎開を開始。
		1945	昭和20	空襲、艦砲射撃で建物被害が多数。終戦。
村制時代	本土復帰前	1946	昭和21	燐鉱山再開。北大東村が誕生。沖大東島を行政区に編入。
		1950	昭和25	燐鉱山を閉鎖。
		1956	昭和31	沖大東島が米軍の射爆場になる。
		1959	昭和34	大型含蜜工場が完成。
		1964	昭和39	北大東島農民の土地所有権が認められる。全島で電化。
		1966	昭和41	黒糖生産から原料糖生産に移行。
	本土復帰後	1972	昭和47	本土復帰。サトウキビ収穫にハーベスターを導入。
		1973	昭和48	ダイトウオオコウモリ、長幕が国の天然記念物に指定。
		1978	昭和53	北大東空港が完成し、定期便が就航。
		1984	昭和59	衛星放送によりテレビ同時放送開始。
		1986	昭和61	海水淡水化施設、簡易水道が完成。
		1990	平成2	定期船「だいとう」が就航。
		2008	平成20	大容量ブロードバンドサービスを開始。
		2011	平成23	海底ケーブル敷設により地上デジタル放送開始。
		2017	平成29	北大東島燐鉱山遺跡が国の史跡に指定。
2018	平成30	字港集落周辺の景観が国の重要文化的景観に選定。		
2019	平成31	漁港が完成。		

## 戦後の沖縄の行政組織の移り変わり

(付録2)

米軍の統治組織		沖縄住民の統治組織	
1945.4	琉球列島米軍政府(軍政長官)		
		1945.8	沖縄諮詢会(委員長)
		1946.4	沖縄民政府(知事)
		1950.8	沖縄群島政府(知事)
1950.12	琉球列島米国民政府(民政長官)		
		1951.4	琉球臨時中央政府(行政主席)
		1952.4	琉球政府(行政主席)
1957.6	同上(高等弁務官)		
1972.5	本土復帰により閉庁	1972.5	本土復帰により廃止

本文では、1950年までは、米軍の組織を「軍政府」、住民の組織を「民政府」と表し、1950年以降は、米軍の組織を「米国民政府」、住民の組織を「琉球政府」と表しています。

監修

高良倉吉（琉球大学名誉教授・琉球史）

編集委員会

委員長：仲嶺仁介（北大東村教育委員会 教育長）

副委員長：島袋勝範（北大東小中学校 校長）

委員：伊井秀治（北大東中学校 教頭）

委員：服部 敦（中部大学教授・北大東村政策参与）

委員：村吉政人（北大東中学校 教諭）

委員：寒川 彩（北大東小学校 教諭）

編集協力

ボーダーインク / 株式会社国建

デザイン制作

ぐりもじゃ・サスケ

資料・写真提供

北大東村役場、服部敦、株式会社国建、NTT WE マリン

社会科副読本 小学校5・6年生

## 北大東村の生活と仕事

---

初版発行 2020年3月

企画・構成・執筆：服部敦

編集・発行：北大東村教育委員会

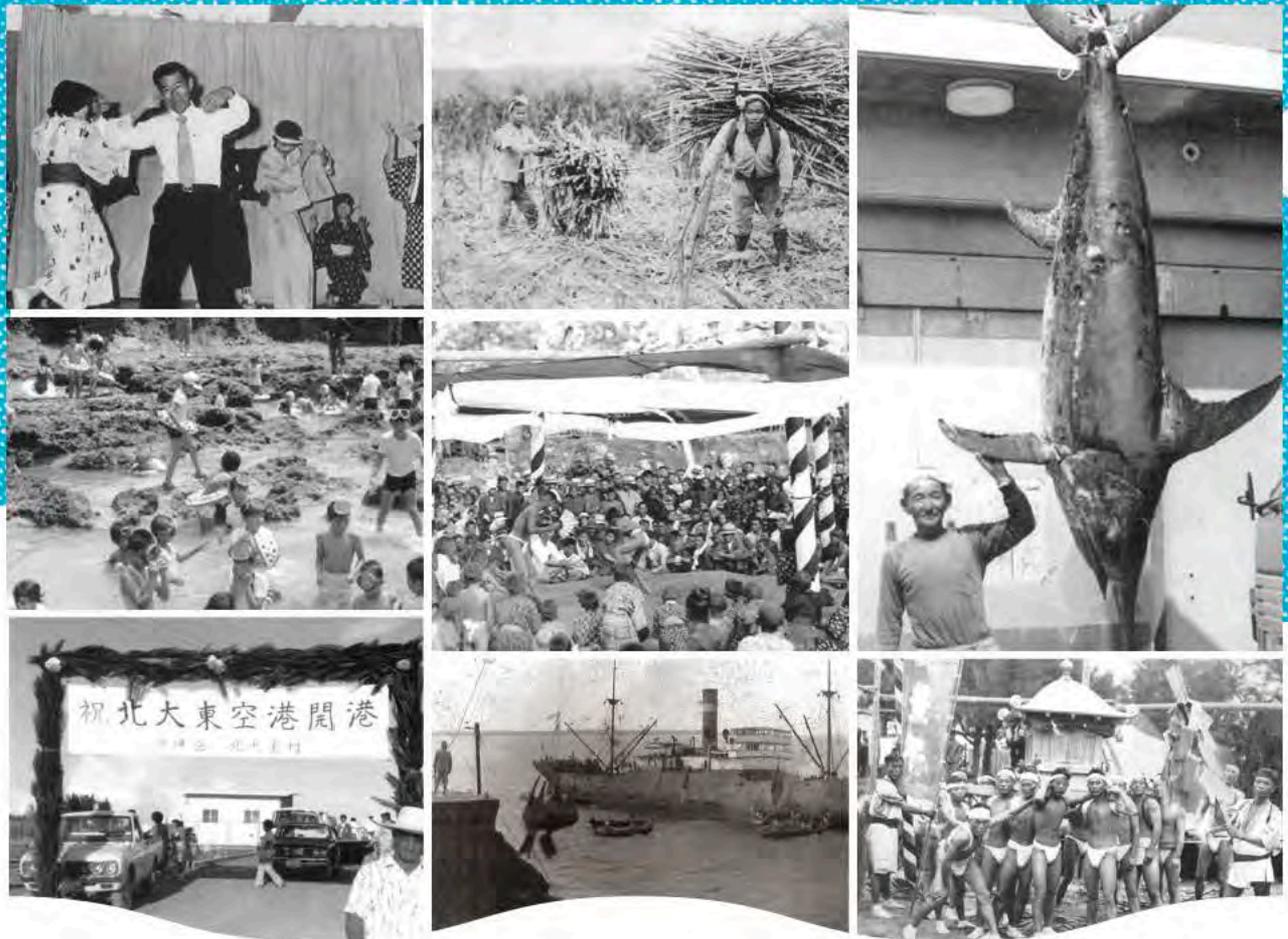
〒901-3902 北大東村字中野218

電話：09802-3-4138

印刷：(株) 東洋企画印刷

---

© kitadaitouson kyoikuiinkai 2020. Printed in Okinawa, Japan



## 北大東小学校

5年 組 番

6年 組 番

名前：